

イギリス文学・文化論ゼミ

2015 年度

海外語学研修・フィールドワーク報告書



<編者・報告者>

浦萌々理・大黒茜・川村茉由・鈴木裕美・中川南海・西村友・

濱中啓太郎・森屋敦正

2016年3月31日発行

まえがき

本報告書は、2015年度「イギリス文学・文化論演習」（加藤ゼミ）における、海外語学研修及び海外フィールドワークとその事前・事後学習をまとめたアクティブ・ラーニングの活動記録である。3年次生は8月にイギリスのバース大学にて **English Language and Culture** という語学と文化を学ぶサマーコースを2週間受講し、その後オックスフォードとロンドンにて1週間のフィールドワークを行った。「演習」とは別の時間に週1コマ、前期期間中に事前学習を行い、訪問先の文化、歴史、及び各自のフィールドワークにおける調査トピックに関する発表とディスカッションを行った。後期は、事後学習として調査トピックに関する追跡調査を文献やインターネットを通じて行い、「フランス文化論演習」（平松ゼミ）との合同発表会において、各自の調査研究に関する発表を行った。そして1年を通じたアクティブ・ラーニングの総括として、春休み中に本報告書を執筆、編集し、発行することとなった。

海外研修を通じて学んだことは、語学、文化、自分の研究テーマに関するだけでなく、自立心や責任感といった社会人として求められる要素も飛躍的に向上したことも付け加えておきたい。これらの活動がグローバル人材としての一つの歩みになることを期待している。本報告書の編集に際しては、教員の手を煩わせることなく、各自が責任を持って取り組んだことも一年間の大きな成果である。本報告書が後輩への指針になればと願っている。

加藤 千博

<旅程表>

日	月	日	行 程	訪問地	宿泊	目的	区分
1	7	月 31 日	金	羽田(22:55)発→パリ経由		エール・フランス	
2	8	1	土	ロンドン(7:50)着 → バース(バスで移動)		バース大学寮 (John Wood Court)	移動、チェックイン 夏季語学研修
3		2	日	バース市内(自由行動)	バース市内、チッペ ナム	バース大学寮 (John Wood Court)	市内FW 夏季語学研修
4~ 8		3~7	月~ 金	バース大学	バース大学	バース大学寮 (John Wood Court)	サマーコース受講(語 学&文化研究) 夏季語学研修
9		8	土	自由行動	ストーンヘイジ・ソー ルズベリー大聖堂	バース大学寮 (John Wood Court)	世界遺産訪問(歴史研 究) 夏季語学研修
10		9	日	自由行動	ジェーン・オースティ ンセンター	バース大学寮 (John Wood Court)	文学研究 夏季語学研修
11~ 15		10~14	月~ 金	バース大学	バース大学	バース大学寮 (John Wood Court)	サマーコース受講(語 学&文化研究) 夏季語学研修
16		15	土	バース→オックスフォード (電車で移動)	オックスフォード市内	オックスフォード大学 寮(Keble College)	コレッジ巡り・市内 フィールドワーク
17		16	日	オックスフォード市内	ブレナム宮殿	オックスフォード大学 寮(Keble College)	宮殿見学(歴史・文化 研究) フィールドワーク
18		17	月	オックスフォード → ロンド ン(電車)	ハリーポッターツ アー他	ロンドン大学寮 (Passfiled Hall)	歴史・文化・文学研究 フィールドワーク
19		18	火	ロンドン市 内	キングスクロス駅・ ディケンズ博物館他	ロンドン大学寮 (Passfiled Hall)	歴史・文化・文学研究 フィールドワーク
20		19	水	ロンドン市内	グローブ座他	ロンドン大学寮 (Passfiled Hall)	観劇(文学・文化研 究) フィールドワーク
21		20	木	ロンドン市内 → ロンドン (20:10) 発 → パリ経由	大英博物館他	エール・フランス	フィールドワーク
22		21	金	→羽田(18:20)着			

目次

1 .Preparatory Research	… 3
2 .Summer Course	…22
of University of Bath	
3 .Field Work Presentations	…28
4 .The Diary	…56
5 .Photos	…66
6 .Reviews	…69

1. Preparatory Research

Bath:



The Roman Baths



Prior Park Landscape Garden



Royal Victoria Park

<基本情報>

- ・人口：83,992 人
- ・面積：約 29 km²
- ・人口密度：2897/km²
- ・サマセット州にある独立自治体。
- ・ロンドンから西へ 97miles (156km)
- ・ブリストルから南東に 12 miles (19km)
- ・緑の球の中の黄金の町といわれる。

<温泉>

- ・イギリスの中では唯一の温泉地であり、3箇所の源泉が存在する。
- ・古代ローマ人が温泉の町として発展させ、かつては入浴・医療・社交の場であった。
- ・43 種類のミネラルを含む炭酸泉
- ・別府市と姉妹提携都市となっている。

<パースの庭園>

◆Prior Park Landscape Garden

- ・18 世紀の風景が楽しめる
- ・世界に 4 つしかないバラディオ様式の橋

◆Royal Victoria Park

- ・1830 年ビクトリア女王(11 歳)によって建設されたイギリス式庭園
- ・最初の「ビクトリア・パーク」(イギリスだけではなく、当時のイギリス連邦各地に残っている)として現存
- ・北の端には Botanical Gardens がある

◆Parade Garden

- ・パースの最も中心地に位置する
- ・夏の間、日曜午後(15:00~)バンド演奏が行われている



<バース大学>

- ・イングランド南西部、バースの郊外にある大学。
- ・学部生 9995 人、院生 1955 人(2012 年)
- ・図書館、学習センターは 24 時間開館。
- ・学生の 6 割は、インターンシップか留学を体験。
- ・大学総合ランキングで毎年 10 位前後。
- ・人気コース
 - ビジネス
 - 開発学
 - ファンデーションコース
 - MBA
 - 薬学
 - 建築学
 - 機械工学 etc...

<イギリス、バースの教育>

◆イギリスの教育システム

- ・16歳までの子供は家庭か学校で教育を受ける義務がある。
- ・公立学校：政府か地方の教育委員会からの資金で運営。
- ・私立学校：プライベートスクールまたはパブリックスクールとも呼ばれる。
- ・イギリス全土にパブリックスクールは2600ほどある。

◆ホームスクーリング：家庭で、親や家庭教師から教育を受ける。

◆バースの教育機関

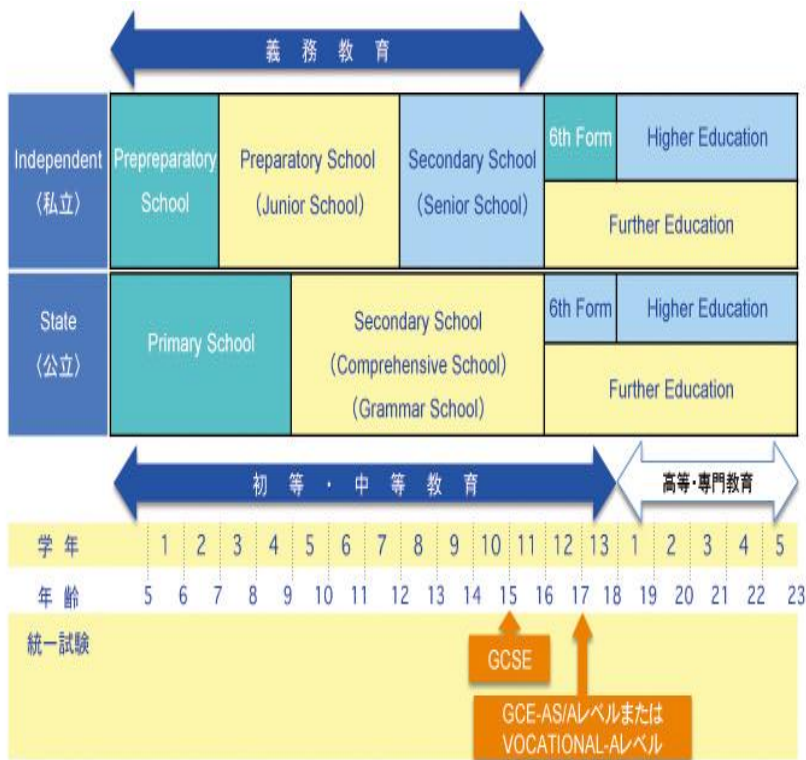
University of Bath

Bath Spa University

Bath College

Norland College

◆バースの中学生たちの中には 2009 年、GCSE で一定の成績に到達した学生が 59.9%いた



(<http://www.icinternational.co.uk>)

※GCSE…任意受験の統一試験。

受験義務はないが、この試験の結果は

その後の進学や就職の際の選考基準として重きが置かれる。

<ブリティッシュパブ>

◆パブ

・イギリスで発達した
酒場で **Public House** の略称。



◆パブの歴史

・元々は酒の提供だけではなく、簡易宿泊所や雑貨屋の機能も備えた場所として 18 世紀から 19 世紀頃に発達した。

・階級社会であったイギリスでは、かつて労働者階級用の空間と中流階級以上の客のための空間は区切られていて、入り口も別につけられていた。

◆パブの慣習

客が直接バーテンダーに注文し、飲み物を受け取りその場で清算するキャッシュ・オン・デリバリーという様式が基本

◆buying a round

・数人でパブに行った場合、一人の代表者が全員分の代金を支払う習慣。

・次の機会の代金支払い時に、別の人物が支払うことで帳尻を合わせる。





<パースのレストラン>

パース中心街では、世界各国の料理店が立ち並ぶ。

事前研究で調査した伝統的なブリティッシュレストラン Salamander には研修時実際に訪れ、英国料理ヨークシャーピングを食した。

(左写真)



ヨークシャーピング



スコットランド料理 (haggis)

- Sotto Sotto
イタリア料理
- Menu Gordon Jones
イギリス料理
→haggis などスコットランド系の料理
- Ole Tapas
スペイン料理
- Clayton's Kitchen
イギリス料理



<バース寺院>

- ・757年～ アングロサクソンの教会
 - ・993年 エドガー王戴冠式
 - ・1066年 ノルマン人の英国征服
 - ・1090年 ノルマン様式の巨大な大聖堂に建て替えた
 - ・1499年 次第に衰退し、廃墟となっていたが、現在のバース寺院が建造された
 - ・1539年 ヘンリ八世によって全修道院が解散され、未完成であった寺院は身廊に屋根がかかる前に工事が中止された。
- ・美しいステンドグラス、オルガンが特に注目すべき点とされている。





<ロイヤル・クレセント>

- ・クレセント=三日月
→三日月のようにきれいな曲線を描いた建物
- ・1767-74年にジョン・ウッドが建設
- ・パルラーディオ様式
- ・イオニア式の列柱に飾られた半楕円形で家の一つが博物館となっており、パース屈指の高級ホテルでもある。
- ・館内は18世紀のインテリアでまとめられており、パースゆかりの肖像画が掲げられている。
- ・テラスハウス方式
→住戸が横方向にのみ連続し、異なる住戸が上下に重なることがない。
- ・イギリスの集合住宅はこの形式が多数を占める。





<バースのスポーツ>

- ◆人気の高いスポーツ：ラグビー。
- ・イギリスでは、ラグビーには 2015 年にロンドン主催でラグビーの世界カップを行うほどの人気がある。
- ・イギリスのパブリックスクール、ラグビー校がラグビーの発祥地となっている。
- ・バースを拠点地とするサッカークラブや市内にはクリケット場もある。

◆サッカークラブ

・ Bath City F.C

・ 1889 年に創設されフットボール

カンファレンスのカンファレンス・サウス（6 部相当）に所属。

◆ラグビークラブ

・ 1865 年に創設され 150 周年を迎える。

・ Lansdown Cricket Club のメンバーが創設、イングランドプレミアシップ所属。

◆Aviva Premiership Rugby

・ イングランドの最高峰リーグで 1987 年に始まり、12 チームが参加。ホーム&アウェイ方式の総当たりリーグ戦、9 月～5 月末に開催される。



<バースのレジャー>

- ◆ballooning
 - ・ビクトリア公園発
 - ・1時間程度バース市街上空を飛ぶ。

◆CINEMA

- ◆Odeon Bath
 - ・ローマンバスから徒歩 6分
 - ・上映本数 13本

◆The Little Theatre Cinema, Bath

- ・ローマンバスから徒歩 2分
- ・上映本数 8本

◆Theatre Royal

- ・イギリスで最も古い劇場の一つ。
- ・子どもたちと若い層向けの劇が多い。

◆History

- ・バースで最初の劇場としてほとんどの儲けが見込まれない状態で建てられ、閉館・開館を繰り返し今に至る。



<バースの産業>

◆現在の主要産業：観光

- ・一年間に 100 万人の滞在訪問者と、380 万人の日帰り訪問者が観光に訪れる。
- ・ロンドンに次いで訪問者の多い観光地。

◆過去の主要産業

- ・かつては製造業で重要な拠点だった

◆Stothert & Pitt

- ・1785 年に Bath で創設されたエンジニア会社でクレーンなど、様々なエンジニア製品を製造。

◆ソフトウェア産業

- ・Future Publishing→Future plc
→本社を Bath に置くメディア会社。
- ・“media with passion” の理念。
- ・30 以上の雑誌をテクノロジー・映画・スポーツなどの分野で出版している。



Oxford:



Christ Church からの眺め



Christ Church 内部

<基本情報>

- ・イギリスはイングランドのオックスフォードシャー州の州都である。
- ・市街地面積は金沢区の1.5倍程度で、その中に15万人ほどの市民が住んでいる。
- ・市街地には、オックスフォード大学があることで有名である。

◆ロンドンからのアクセス

- ・ロンドンのパディントン駅からおよそ1時間。
- ・長距離バスでロンドンから2時間弱。

◆オックスフォード大学

- ・英語圏で最古の大学。
- ・様々なカレッジが大学を構成している。
- ・主な出身者
デーヴィッド・キャメロン首相
マーガレット・サッチャー元首相
J.R.R. トールキン
C.S. ルイス

◆ Christ Church

- ・オックスフォード主教管区の大聖堂であると共に、オックスフォード大学のカレッジである。
- ・『不思議の国のアリス』や『指輪物語』シリーズにゆかりがある。

◆ ルイス・キャロルが過ごした Christ Church

- ・ルイス・キャロルは Christ Church を最優秀の成績で卒業後、同校の数学教師として研究をつづけた。
- ・ Christ Church の寮長リデルの娘アリスに出会い、『不思議の国のアリス』を執筆した。
- ・『不思議の国のアリス』がナンセンス文学として位置付けられている。
- ・本文には多数のナンセンスな言葉遊びが含まれており、作中に挿入される詩や童話の多くは当時よく知られた教訓詩や流行歌のパロディとなっている。
- ・ Christ Church で生まれた『不思議の国のアリス』は、のちの文学に影響を与えた傑作として知られている。
- ・前述のグレートホールには、ルイス・キャロル（本名：チャールズ・ラトウィッジ・ドジソン）の肖像画が飾られており、スタンドグラスには主人公アリスやドードー鳥が描かれている。

◆ トールキンと Christ Church の関わり

- ・『指輪物語』『ホビットの冒険』の作者
- ・1915年、優秀な成績で英語の学位をとり、オックスフォード大学を卒業後、第一次世界大戦にイギリス軍として参加、帰国し療養中に物語の構想を閃く。
- ・帰国後の初仕事はオックスフォード英語辞典の編纂であった。
- ・1945年オックスフォードのマートン学寮に籍を置くマートン記念英語英文学教授となり、1959年の引退までその職についた。
- ・職務の中でダイアナ・ウィン・ジョーンズにも英文学を教えていた。
- ・近代イギリス文学における長編ファンタジーの祖とされる。

<Diana Wynne Jones>

- ・ロンドン出身の小説家。
- ・オックスフォード大学セントアンズカレッジ卒業。
- ・『指輪物語』で知られるトルキンや、『ナルニア国物語』で知られるC・Sルイスの講義を在学中に受けた。
- ・宮崎駿の映画『ハウルの動く城』の原作となる小説”*Howl’s Moving Castle*”の作者である。
- ・宮崎版では反戦がひとつの主題とされているが、彼女はとくに戦争を意識して物語を書いたわけではない。
- ・彼女自身、宮崎作品の大ファンであり、自作をアレンジされることに抵抗はなかったことを告白している。



<聖メアリー教会>

- ・オックスフォード市街地にある。
- ・市街地の建物の中でも古い建物の一つである。13世紀に立てられたという古い尖塔を持つ教会である。
- ・内部の“The Old Library”はカレッジに対抗するために建設された初めての大学施設である。
- ・『不思議の国のアリス』のモデルになったアリス・リデルが通った教会。





<Blenheim Palace>

◆基本情報

- ・オックスフォード郊外にある。1704年、ブレンハイムの戦いでフランス軍に勝利したマールバラ公ジョン・チャーチルにアン女王が送った屋敷である。
- ・第二次世界大戦中のイギリスの首相であったウィンストン・チャーチルの生家でもある。現在でもチャーチル家がこの屋敷で生活している。

◆現在の Blenheim Palace

- ・現在は観光客に開放され、チャーチル家にまつわる調度品から歴史を探ることができる。
- ・約55メートルにも及ぶロングライブラリーは、聖ポール大聖堂の設計で有名なクリストファー・レンが設計した。
- ・敷地の維持には膨大な費用がかかり、それらを入場料や敷地内に設けたアスレチック遊具などでまかなっている。

◆Blenheim Palaceに見られる庭園

・ひとつの敷地の中に3種類の庭園様式がみられる。

①イギリス式庭園

平面幾何学式庭園であるフランス式に対し、人口庭園でありながら、より自然の景観美を追求した様式。イギリスで最も偉大な造園家ブラウン氏によって建築された。

②フランス式

平坦で広大な敷地に左右対称性・幾何学的な池の配置や植栽の人工的整形を特徴とする。

③イタリア式

幾何学的庭園で、テラス式とも呼ばれ、庭園敷地が長方形の形態が特徴である。庭園の内部から周囲の風景を眺め、パノラマ景を楽しめる。

◆ウィンストン・チャーチルと Blenheim Palace

・ウィンストンは1874年 Blenheim Palace に生まれ、自身の祖先でもあるジョン・チャーチルに憧れていた。

・やがてウィンストンは軍事面で頭角を現し、戦争に勝つことが最重要事項とされた世界大戦の時期に首相に就任する。

・この事とイギリス人が選ぶ好きな偉人ランキング一位に彼がランクインしたことを考えると、イギリス人にとっての戦争の意味が見えてくる。

London:

◆基本情報

- ・イギリス内イングランドの首都であり国際都市である。
- ・神奈川県の3分の2ほどの市域に840万人が暮らす。
- ・日本からロンドンへの直行便もあり、羽田空港から飛行機で12時間ほど。



- ・市街地は、地下鉄をはじめ、タクシーや路線バスの網が張り巡らされ、また国内各地をむすぶバスや電車が発着する交通の中心地であり、また政治や経済の中心そしてメディアを中心とした文化の発信地である。

<グローブ座>

- ・木造円筒形の建物で、シェイクスピアが活躍したエリザベス朝当時のものを再現。
 - ・1回は土間の立見席、2～3階が栈敷席
 - ・屋根がないため、雨の日の観劇は少し不便である
 - ・現在もシェイクスピアの劇を上演し、バックステージツアーでの席の裏側を見学することが可能
 - ・日本人はシェイクスピア作品において四大悲劇を好むが、イギリスでは悲劇に比べ喜劇が好まれている。
 - ・一度火事によって焼失している。
- 当時のスケッチブックや同時代の劇場の設計図を基に再建。



<セント・ポール大聖堂>

- ・イギリス国教会ロンドン教区の主教座聖堂で、聖パウロを記念している。
- ・およそ 6 割のロンドン市民がキリスト教徒であるため、この他にもロンドン市域には沢山の聖堂が点在している。
- ・Christ Church の一部を建築したクリストファー・レンによる設計である。



<ハンプトンコートシャー宮殿>

- ・“HAUNTED HOUSE” とは「お化け屋敷」。イギリスは数多くのお化け屋敷があるとされる。
- ・このハンプトンコートシャー宮殿は、ヘンリ 8 世が住んだ宮殿で、ここで処刑された 3 人の妻やヘンリ 8 世の幽霊が出ると言われている。
- ・ヘンリ 8 世の妻で、エドワード 6 世出産の 12 日後に産褥熱でなくなったジェーン・シーモアの幽霊が階段で見ることができる。のちのヘンリ 8 世の妻キャサリン・ハワードの悲鳴も聞くことができる。処刑されたヘンリ 8 世の妻アン・ブーリンの幽霊や、ヘンリ 8 世本人の幽霊も目撃されている。
- ・東側はセント・ポール大聖堂などの設計で知られるクリストファー・レンの作品。



< C A F E >

◆CAFÉ ROUGE

- ・チェーン展開しているコーヒー店。
- ・パリの街角を意識した外観となっている。
- ・ロンドン市民のファミレスのような存在であるため、ロンドンの日常を垣間みることが出来る場所？



CAFÉ ROUGE

◆CAFÉ REPUBLIC

- ・イギリス国内のコーヒーチェーン店といえばこの店。イギリスのドトールやスターバックスといった存在。
- ・ここも同様に、ロンドン市民の生活を垣間見ることが出来る。



CAFÉ REPUBLIC

◆CHARLES DICKENS COFFEE SHOP

- ・ロンドンで執筆活動を行ったチャールズ・ディケンズの元の住居である。ここの二階が彼の書斎であった。
- ・現在はカフェとして、コーヒーや軽食をたしなみながらディケンズのゆかりの地として観光客に人気がある。



CHARLES DICKENS COFFEE SHOP

<Bloomsbury group>

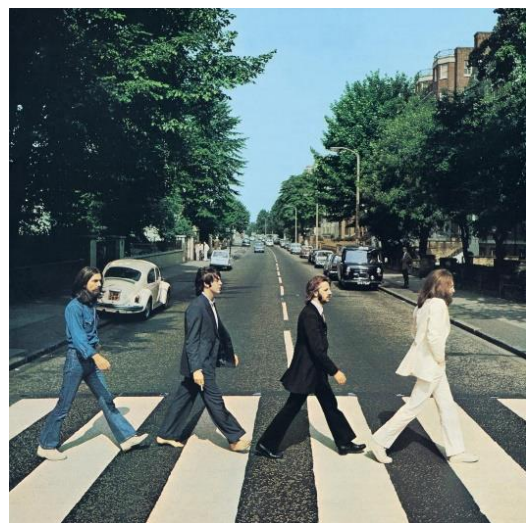
◆London Bloomsbury

- ・20世紀初頭の作家、芸術家たちによるグループである。
- ・19世紀の古い道徳概念を批判し、新しい知と美を象徴。
- ・彼らの多くはアッパーミドルクラスの人間である。
- ・Bloomsbury とは、ロンドンの地区の名前であり、彼らはこの地を愛し暮らした。
- ・代表的人物は『ダロウェイ夫人』の作者であるヴァージニア・ウルフ。



◆Abbey road

- ・ビートルズがレコーディングをした、アビーロードスタジオの所在地であり、彼らが終焉を迎えた地である。
- ・スタジオの前の横断歩道で、アルバムのジャケット写真を撮影した。
- ・彼らが解散前に出した最後のアルバムである”Abbey Road”の全曲をこの地のスタジオでレコーディングした。
- ・一般道の横断歩道であるが、国の文化財として登録されている。



まとめ：

実際3つの都市を調査し、バースという私たちに馴染みのない都市だけではなく、ロンドンやオックスフォードといった私たちにとってある程度親しみのある都市についても調べることによって新たな発見があった。

バースは、街全体に最盛期であったヴィクトリア朝の要素が色濃く残っており、それゆえに観光客向けの施設も充実しているように感じられた。他の2都市に比べ、日本人にはあまりなじみのない街であるが、イギリスにとって、この街が歴史的にも、また建築様式などの芸術文化的に非常に価値の高い街であると事前に学習していったおかげで、観光にとどまらない街探索や研究を現地で行うことができた。

また、日本ではあまり想像のつかない、大学と一体化している街がオックスフォードであった。多くの文学的偉人を輩出し、オックスフォードという街がいかにイギリスの文学発展にかかせない場所であるかを事前調査で感じた。実際に訪れるとやはり中心街は観光客であふれていたが、奥に入れば閑静なキャンパスが数多く存在し、文豪ゆかりの地にも足を運ぶことができた。また事前調査ではわからなかったが、学生たちによる演劇も街全体を通して盛んであった。

ロンドンは、国際的な市街地というイメージが強かったが、グローブ座から、Abbey road まで幅広いイギリスの歴史を感じることができる街であると事前調査で感じた。実際に訪れて感じたことは、やはり多人種が共存する街であり、ビジネスマンを見る機会も他の街に比べて多かった。また、治安の悪さは学習していったが、浮浪者の多くが白人の若者であることに驚かされた。

実際のフィールドワークを想定した事前学習を通じて、より私たちが現地へ行く具体性や実行性を考慮した調査を行うことができた。文学や文化的領域のみならず、交通インフラや、各都市の産業や地理的要素にも目を向けることで、より幅広い視野で各都市を分析することが重要であると感じた。各都市を調べることによって、そこから日本との共通点や相違点などを改めて確認することができた。

2. Summer Course of University of Bath



I. 授業

1 日目 :

クラス分け学力テスト

Reading (マーク式)

Writing (テーマ指定の小論文)

Speaking (教師 1 人、生徒 3 人のディスカッション形式)

↓

キャンパスツアー

現地の大学生ボランティアによる大学構内散策。

↓

各クラス自己紹介

授業時間 :

1 コマ 90 分 × 3 + 特別講義 or 課外授業 を 2 週間

一部 Topic :

• British events

結婚前の新婦が女友達と独身最後の夜を楽しむ (Hen party stag night bride groom)

15Cカトリック教徒らによるジェームズ1世暗殺計画を防げたことを祝う (Guy fawkes night)

• Social issues

一人一人社会問題について、自国文化を交えながらスピーチ&ディスカッション。

私は、“Women in society” について。男女平等になりつつある世の中だが、それは一時的なものではないか。例えば、育児・出産、それに伴う女性の社会復帰について。

→育児休暇について、日本人ほどシビアに考えてはいない中国人

親を選ぶか、子供を選ぶかを決断し相手を説得するシュミレーションゲーム。

子を捨てる親と、親を捨てる子のどちらの罪が重いか最後まで決着はつかない白熱したディスカッションを経験。相手を納得させる表現をディスカッションの中で見つけることは難しく、語彙力のなさを痛感した。また、国によってベースにある概念が異なることに驚いた。

Homosexuality についてのディスカッション。

アジアの同性婚容認国は少ない中、自国はこれからどのような選択をするだろうか考えた。日本はやはり保守的国家なので様々な認可はされても、合法への道は長いだろうとスピーチ。詳細な現在の認可、法律について自国の知識が浅いことを痛感。

• Culture

イギリス文化に関係のある写真を何枚か提示され、それがどのような文化か、またどのような意味があるのかグループごとに話し合い発表した。例えば食文化の一つとして挙げられたヨークシャーブディングはイギリスでは休日のランチメニューとされており、一般的に Sunday lunch として親しまれている。

• Literature

英文学『テス』の一場面をサイレントで映画鑑賞し、登場人物の行動が意味するものや彼らの心境を予測し話し合った後、実際に音声付きで再度鑑賞しセリフから読み取れた新たな情報をもとに再び登場人物らの心境や行動、また今後の展開などを話し合った。

ライブラリーにある文学作品を一人一冊選び、時間内に読んだ内容についてそれぞれ発表し合った。

特別講義：

“The city of Bath” by Marian McNeir MBE 4th August

バースという都市について、その概要や取り組み。バース市は年に 400 万人もの観光客が訪れる世界遺産都市でありその人口は 87000 人、そのうち学生が 2000 人である。ユネスコが管理する世界遺産だがバース市は 1720～1780 年代のジョージ王朝風の街並みと 2000 年前のローマ調の街並みが現存しているという点が評価されたことで世界遺産登録に至った。

しかし近年では世界遺産認定都市と人口増加との兼ね合いや交通問題、環境への配慮、近代的な建築物を求める住民との対立など、課題も多く抱えている。

“Worldwide English” by Diana Hopllins 11th August

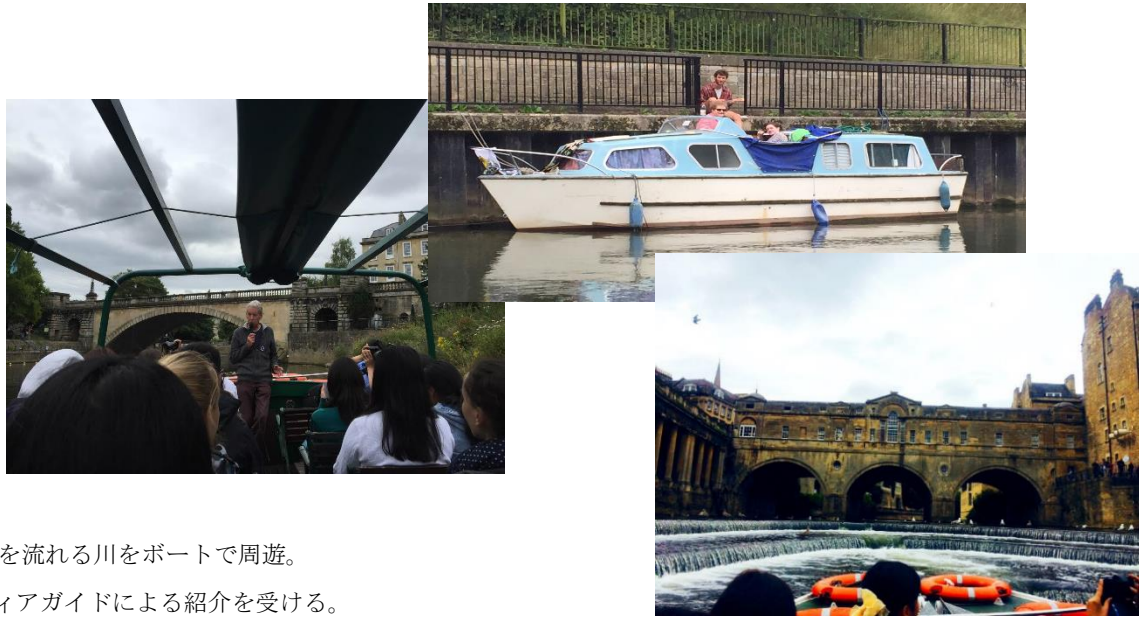
世界共通語となった英語の経緯とその課題について。英語が世界共通語になった背景にはイギリスの経済力に支えられた軍事力の存在が大きくあった。英語が他言語の地域に浸透していくと同時に、現地語と英語が混同され新しく Pidgin 語という言語枠が形成された。現地には Pidgin 語しか話せない人が多く生まれ、英語と現地語どちらも流暢に使えないという問題が発生した。

英語が世界に広まることにはメリットとデメリットの両方が存在する。メリットとしては世界的に経済力の向上が期待できること、旅行の簡易化、世界平和につながるなどが挙げられる。デメリットとしては言語や文化の多様性が失われることが挙げられ、実際に英語の広がりを受け 500 もの言語が話者がいるにも関わらず消滅に追いやられている。

また英語が共通語として広がる中で、英語そのものが多様化してきている。

II. 課外授業

1 週目 : Boat trip in Bath



Bath の街を流れる川をボートで周遊。

ボランティアガイドによる紹介を受ける。

休日を利用し、ボートの中で暮らす人々が多くいる。(canal barge lock)

街の人を巻き込んだ散策課題が出されるなど、街全体が観光客を迎え入れていると感じた。

2 週目 : Stourhead

ナショナルトラストに登録されているイギリス式庭園を散策。

多くの英国ドラマ、映画の撮影場所としても知られる (オースティン原作

映画『高慢と偏見』etc)。庭園内にはチャペルがあり、実際に結婚式をあげる

カップルもいた。また神殿やローマ時代を思わせる様式の柱などが園内の各地に

そびえる。幾何学的なフランス式庭園と対照的な自然美を追求したイギリス

庭園の代表的存在である。開園時の 1740 年には、“a living work of art”

と賞賛された。



Ⅲ. プロジェクト

クラス授業とは別に、BathCulture/Music/Art/Foodの4つに分かれて調査をし、発表。
放課後の大学構内や、宿舎、休日の街に出て各自チームメイトと作業。



①Bath Culture

教育について (浦)

調査方法：インタビュー

発表方法：Film 作成・上映

(内容) バースの「教育」をテーマに「なぜバース大学がイギリスにおける学生満足度ナンバーワンに輝いたのか」を調査。日本人、中国人の3名で行い、バース大学教授、生徒、そして進学を目指す留学生、現地の住民にインタビューした。その模様をビデオカメラで撮影、編集し、発表。テーマに対する答えとして、①小規模な大学②課外活動の充実③留学制度の充実④インターンシップ制度の活発化を導き出した。日本の大学以上に留学やインターンの環境が整っており、ゆえにナンバーワンの座を得ることができたのだと結論付けた。

歴史建造物について (大黒)

調査方法：インタビュー 図書館での調査

発表方法：スライドを作成

(内容) RoyalCrescent について。中国人の女の子とペアを組み、RoyalCrescent を訪れた人にインタビュー。歴史、様式などの情報と、バース市民にとって、また観光客にとってどのような場所なのかを調査した。建物全体の色調が、街によって異なることを全員が強調し、バースの街並みははちみつ色であると表現されていた。歴史ある建物ゆえに、街で浮いた存在になっているのではという仮説をたてていたが、調べるほどに、街並み、住民と共存していることがわかった。

②Art

Wall art について (川村)

調査方法：Art の街 Bristol で課外調査、街の人々に対してのインタビュー

発表方法：スライドを作成

(内容) Bristol に関係のあるストリートアーティスト、Banksy について実際に鑑賞しさらにストリートアートの印象について街頭調査を行った。調査の結果、芸術的で好ましいと感じる人と汚い印象を持っている人とで半々に分かれた。

③Music

音楽文化について (中川・西村)

調査方法：Folk Festival 鑑賞、アーティストに対してのインタビュー

発表方法：スライドを作成/実際に演奏

(内容) 音楽文化について、実際に Folk Festival を鑑賞しに行き演奏していた方々にインタビューを行った。使われる楽器や音楽の形態など、イギリスの音楽文化を調査した。

インタビューに応じた青年は特に Irish music を演奏し Melodeon と呼ばれるアコーディオンの鍵盤の代わりに多くのボタンが付いた楽器を扱っていた。また影響を受けたイギリスのミュージシャンとしては、同楽器を演奏する Andy Cutting というミュージシャンを挙げた。

3. Fieldwork Presentations

I. 130107 浦萌々理



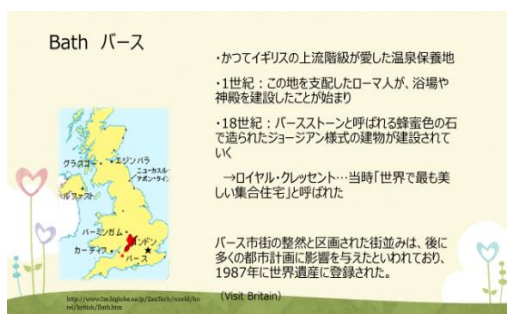
私は主に英国 18 世紀女流作家ジェーンオースティンとバースとの関わりについて調べてきた。方法として Jane Austen Centre、Jane Austen Tour、Victoria Museum Jane Austen's Ball Party、Roman Bath、Pump Room を訪れた。



主に Austen がどのようにバースという街を彼女自身の作品に取り入れたのかに注目した。ここからは事前学習、現地調査、考察（彼女自身がなぜバースを嫌いになったのか）の順に展開していく。



18 世紀イギリス田舎町の中産階級を舞台にし、様々な作品の中で女性の結婚模様をリアルに描いた。彼女も実際にハンプシャーの中のステューブントンという田舎町に生まれ、バースに引越す前まで根付いていた。また、彼女の父は牧師であったため、彼女自身も中産階級に位置していた。ハンプシャーの後、バースに移り住むことを彼女は嫌がったがこれが大きな意味を持つと考えた。



次にバースについて紹介する。かつてイギリスの上流階級が愛した温泉保養地であり、1 世紀にローマ人が、浴場や神殿を建設したことが始まりである。バースストーンと呼ばれる蜂蜜色の石で造られたジョージアン様式の建物が建設され、バース市街の整然と区画された街並みは、後に多くの都市計画に影響を与えたとされており、1987 年に世界遺産に登録された。

あらすじ Northanger Abbey

南イングランドを舞台に、普通の女の子がヒロインになるまで一風刺性、喜劇性をあわせつつ、オースティンならではの恋愛世界が広がる。

キャサリン・モランドという十七歳の若い女性を主人公に、前半は**ファッションな温泉保養地バースを舞台に**、後半はグロースターシャーの裕福な地主の家ノーサンガー・アベイに場所を移して、繰り広げられる。

バースでは裕福な地主アレクサンダー夫妻や新興ブルジョアのソーパー家を中心に、社交場や散歩道などを舞台に都市小説風の展開を見せ、ノーサンガーでは怪奇小説的要素を加えて、地方地主の古い屋敷を舞台に裕福な地主の生活ぶりを浮かびあがらせるしかけである。

BOOK テーマバースは49

彼女の処女作『ノーサンガーアベイ』のあらすじを紹介する。詳しい説明は左のとおりである。主人公キャサリンがバースでの経験を経て大人の女性へと成長していくところがポイントだ。

事前学習 Bath in Northanger Abbey

【オースティンの描き方】

・主人公をバースに置き、キャサリンの冒険やジレンマを誰もが経験し得る日常的なものとする

・キャサリンとティルニーの舞踏会での会話：

前半：①「バースに6週間もいたら飽きるのが当然、ロンドンに比べたら変化に乏しい」

②「そんなことはない」

→すべてがキャサリンにとって目新しく、純粋に日々楽しんでた。「私が家に帰っても必ずバースの話ばかりするわ！」

後半：バースを離れることに何の後悔もなかった

←それより彼女はティルニーとの結婚のことで頭がいっぱいだったから

= バースは定住する場所ではないとのオースティンの意見

事前学習としてこの作品を通読、そして映画を見た。Austen はバースを誰もが経験し得る日常的な場とするとともに、定住する場ではないとの見解を作品の中で示しているように感じた。

現地調査① 「どのようにしてバースを作品に取り入れたか」 at Jane Austen Centre

Health and Water

・18世紀バース…健康に良いとされる

温泉をもとめる観光客

効能；てんかん・肥満・ハンセン

病・腹痛・リウマチ・疝痛・痛風

・兄エドワードの体験に対してJanelは…

"I fancy we are all unanimous in

expecting no advantage from it"

(Letter from Janel to Cassandra 29 June 1799)

★作品では…

✓「地主アレクサンダー氏は痛風の持病を治すために、温泉保養地バースでの治療を医者から勧められた。」Chapter 1

→滑稽な登場人物アレクサンダー氏(キャサリンの叔父)は温泉の効能を信じ込んでいる

ここからは現地調査で分かったことを述べる。Roman Bathにて当時実際に温泉の効能があったことは不確かであるが、市民の間で効果が期待されていたことはたしかである。これにより、滑稽な登場人物に温泉好きを取り付けることで Austen はバースの非難をしていたるのではないかと推測される。

現地調査② 「どのようにしてバースを作品に取り入れたか」 at Jane Austen Centre

Pump Room

・鉱泉水を飲むことのできる部屋

・楽団による演奏を楽しみながら会話を弾ませる場

→社交の場

・バース訪問者の名前と住所

が記された芳名帳があった

★作品の中では…

✓"at the Pump-room, that she might inform herself to general Tilney's lodgings, for though she believed they were in Milsom street..." Chapter 12

→キャサリンがティルニー一家の居場所を知るため、Pump Roomへ行く

「アレクサンダー氏は鉱泉水を一杯飲むと紳士たちの政治議論に加わり、自分たちが読んだ新聞記事についてあれこれ論評し合っていた。」Chapter 10

Pump Roomにて。鉱泉水を飲むことのできる部屋であり、楽団による演奏を楽しみながら会話を弾ませる社交の場である。バース訪問者の名前と住所が記された芳名帳があり、作中にもキャサリンが意中のティルニー氏の連絡先を知るため、ここに足を運んでいる。

**現地調査③ 「どのようにしてバースを作品に取り入れたか」
at Jane Austen Centre**

Shopping

- バースは流行の最先端
- お土産選びに最適な場所

Milsom Street, Bond Street

- Jane自身も買い物を楽しむ
- 袖に袖なしマント、膝にストッキング、友達に靴、義理の妹にギフト用のパール

★作品では…

- ✓ "Bath is a charming place sir; there are so many good shops here. We are sadly off in the country... Now here one can step out of doors and get a things in five minutes." Mrs Allen
- ✓ "I saw the prettiest hat you can imagine in Milsom Street"

「最先端」とは言えないが今でも多くの人が買い物を楽しむ



バースは流行の最先端であり、お土産選びに最適な場所とされる。特に Milsom Street, と Bond Street であり、Jane 自身も買い物を楽しんだとされる。実際に行ってみて、流行の最先端とは言えないが、お店などがまとまっていて、アレン夫人が「家を出たら5分で買い物できる」と言っていたのは間違いではないことが分かった。

**現地調査④ 「どのようにしてバースを作品に取り入れたか」
at Jane Austen Centre & Victoria Art Museum & Assembly Room**

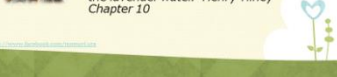
Ball Party (Dancing) at Assembly Room

- バース社交界の中心地
- バースを訪れた人は舞踏を持ち寄る
- 若い男女にとってこの時代のダンスパーティーは重要
- 男女の会話を許される場
- 女性が優雅さを見せつける場
- 結婚のパーティーを探す
- カードゲームをしたの茶会より

★作品では…

"In marriage, the man is supposed to provide for the support of the home. He is to smile. But in reality, the woman is exactly the opposite. She is to be supported from him, while she furnishes the fan and the lavender water." Henry Tilney Chapter 10


思っていたより狭い空間。オースティンが批判するのも納得



Ball Party、Assembly Room にて。ここはバース社交界の中心地であり、バースを訪れた人は噂話を持ち寄る。若い男女にとってこの時代のダンスパーティーは重要で男女の会話を許される場、女が優雅さを見せつける場であった。思っていたより狭い空間だったため、オースティンが社交界を批判するのも納得できた。

結論
「Jane AustenはどのようにしてBathを作品に取り入れたのか」

- 当時温泉を求める人々を批判的に捉え皮肉たっぷりに描いた
- オースティン自身は温泉の効能を信じていない
- 「あまり効果はないだろうというのが私たち全員の一致した意見のようです。来月以降もここに滞在するとは思いません。」1799.6.2



- 滑稽な人物に社交界好きを取り付ける
- バースの社交界が嫌いだったことがわかる
- 「水曜日一昨日も退屈なパーティーでした。もっと人がいればまだ良かったかもしれませんが、カードテーブルが一つ、それを見ながらくだらないしゃべりをする人が六人です。」1801.5.12-13

実際にどのように作品に取り入れたかという疑問に対するまとめとして、オースティン自身は温泉の効能を信じていないことから、当時温泉を求める人々を批判的に捉え皮肉たっぷりに描いたことと、滑稽な人物に社交界好きを取り付けた。このことから Austen のバースの社交界が嫌いだったことがわかる。

今後の展望

"Northanger Abbey" (執筆1798) と "Persuasion" (執筆1816)

↑ 作家活動において最初に書き始めた作品 ↑ 最後に書いた作品

⇒ バースは Austen にとって重要な意味を持つ

卒論の候補として…

- 主人公 (キャサリン、アン)「誤信」はバースでのどのような経験を経て、どう成長するか
- なぜ Austen は嫌いなバースを舞台に2作品も書いたのか

彼女が作家活動において最初に書き始めた作品と最後に書いた作品どちらもバースが舞台となっている。バースを嫌いであるとしても少なからずバースは Austen にとって重要な意味を持つと考えた。主人公たちがどう成長していくか、などに注目して研究を進めたい。



参考文献は以下のとおりである。

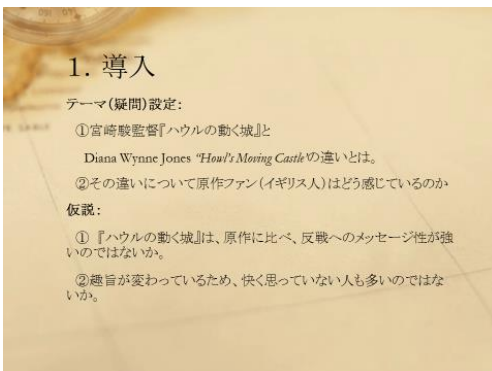
II. 130118 大黒茜



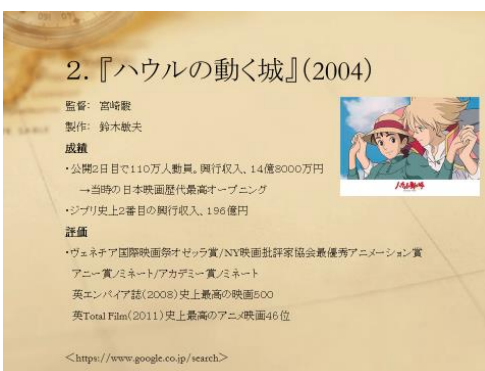
宮崎駿監督『ハウルの動く城』と、イギリス人作家ダイアナ・ウィン・ジョーンズによる原作“*Howl's Moving Castle*”について、イギリスでのフィールドワークで調査・考察してきた。



目次は以下のとおりである。



- ① 宮崎駿作品と原作の違いは
 - ② そのちがいについて現地のファンはどう思っているのか
- 仮説として、
- ① 映画は反戦メッセージが強いのでは
 - ② 趣旨が変わっているため、快く思わないファンもいるのでは



まず、宮崎駿作品『ハウルの動く城』は2004年に公開され、大ヒットを記録したジブリ作品である。数々の賞を受賞し、世界でも高い評価を受けた。

ストーリー

- 舞台:インガリー国(架空の国)
- 人物:ハウル <若い娘の心臓を食らう>、<動く城>に暮らす魔法使い
ソフィー 帽子屋の長女。荒地の魔女に呪いをかけられ老衰に。
カルシファー 火の悪魔。ハウルと取引をしている。

荒地の魔女 ハウルの心臓を狙っている



< img5.blogs.yahoo.co.jp >

映画のストーリーは以下のとおりである。

3. "Howl's Moving Castle"

- 1986年Diana Wynne Jones著
- 1997年百村静子訳で、日本語出版



原作は以下のとおりである。

1986年に出版され、1997年には日本語訳が出版された。

Diana Wynne Jones

- 1934年イギリス生まれ
- Oxford大学St.Anne's College卒業

J・R・R トールキン(『指輪物語』)
C・S ルイス(『ナルニア国物語』)らの襟義を受ける

- 大学卒業後と同時に結婚し、3人の子供を育てながら、ファンタジー作家として活躍



<<http://www.leemac.freereserve.co.uk/gallery2.htm>>

原作者のダイアナについて。

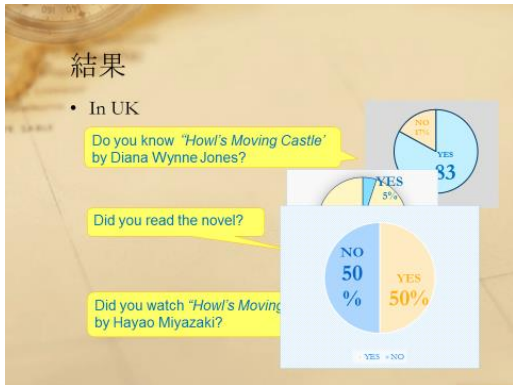
4. 検証

- 方法、手段:
インタビュー 
メール(追跡調査)
- 対象:
University of Bath教員/学生/
St.Anne's College教員/書店スタッフ
Eagle and Childスタッフ →計6名 (In UK)

※追跡調査対象:横浜市立大学学生 23名




仮説の検証を、イギリスのフィールドワークで行った。書店の店員、ダイアナの母校、大学の教員ら23名に質問をし、日本の学生と回答を比較した。

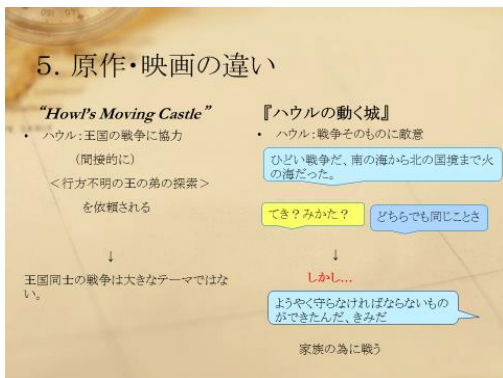


結果は以下のとおりである。

作品の認知度は8割を超えたが、9割が実際に読んだことはないと答えた。宮崎版の映画については5割が鑑賞したことがあると答えた。



日本での追跡調査の内容は、イギリスで行った質問と同じものを使用した。映画の認知度は100%であった。が、原作を読んだことがある人はいなかった。

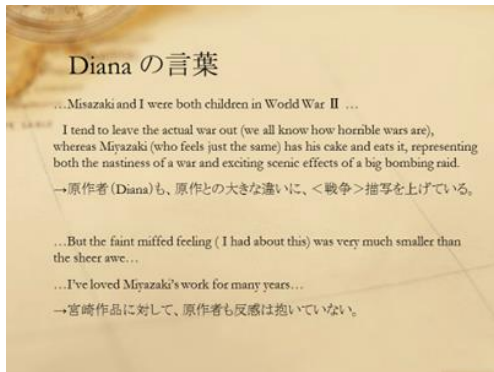


原作と、映画の違いについて検証していく。原作で描かれる戦争は、サブプロットに過ぎず、大きなテーマではない。一方で、映画のハウルは明らかに戦争に敵意をもったキャラクターとして描かれる。

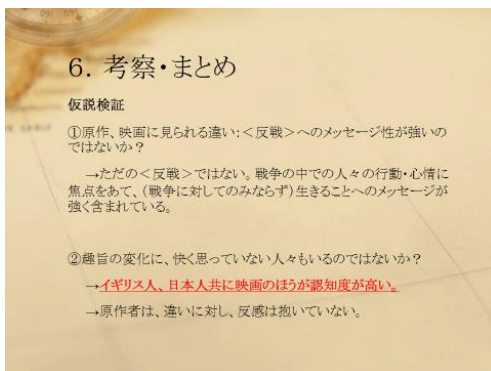
単なる「反戦」がテーマではない?

- ★ハウル=アナーキーな存在
 - 圧政・権力に立ち上がること=美
 - 退けるべきもの
 - =△暴力、○エゴ・欲望・支配欲
- ★ハウル=特攻隊の少年の表象?
 - 愛する人を守るため、(無謀だとしても)戦わざるをえない

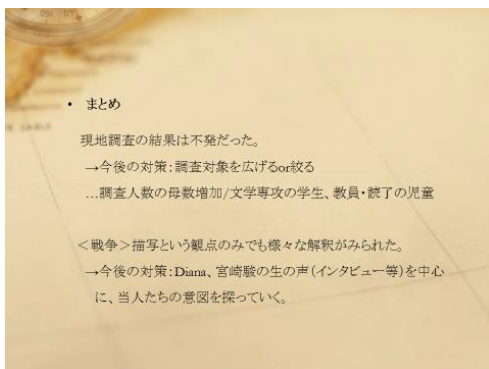
映画の戦争描写について言及する。単純な反戦が主題ではないのではないかと。ハウル=アナーキーな存在であり、その無謀さから特攻隊の少年の象徴のようにも読み取れるのではないかと。



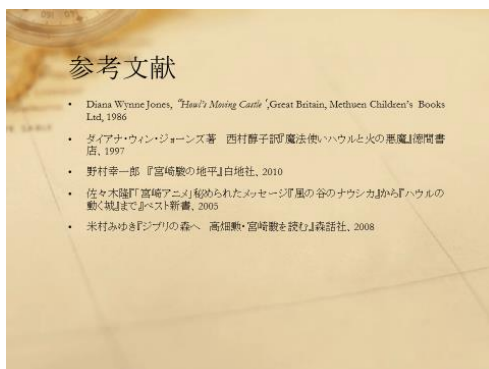
ダイアナの言葉に以下のようなものがある。ダイアナ自身も、宮崎作品との違いについて、戦争描写をあげている。そして、彼女はその相違について、好意的に述べている。



考察、仮説の結果は以下のとおりである。二つの違いは戦争描写であるが、映画における主題は反戦ではなく、生きることへのメッセージではないか。又、今作はイギリス人以上に日本人に認知されており、原作者も好意的に趣旨の違いを受け止めていた。

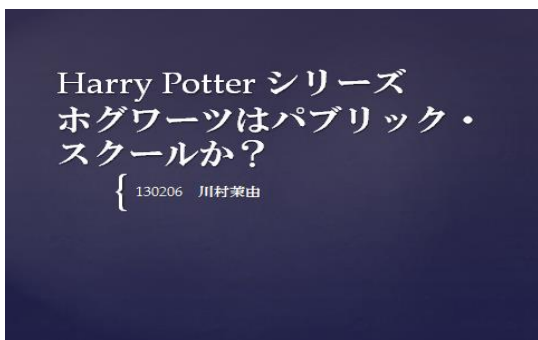


まとめ、振り返り。
現地調査は不発であった。今後の対策としては、調査対象を広げる、あるいは絞って行いたい。



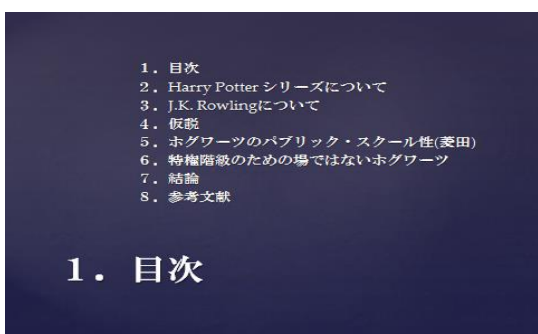
参考文献は以下のとおりである。

Ⅲ. 130206 川村茉由



今回私はイギリスで *Harry Potter* シリーズのロケ地を訪れたりスタジオツアーに参加したりして、作品中のホグワーツそのものに関心を持ち、ホグワーツはパブリック・スクールか、という疑問を持った。

こちらが目次である。



Harry Potter シリーズとは、J. K. Rowling による全7巻のイギリスのファンタジー作品であり、1997年にロンドンで第1巻が発売されてから瞬く間に世界的ベストセラーとなった。2001年からはワーナーブラザーズによる映画作品も公開された。魔法使いの少年ハリーが、両親を殺した宿敵ヴォルデモートと戦う、愛と友情と勇気の物語である。



作者の J. K. Rowling は、イギリスの女性児童文学作家である。1965年にチップینگ・ソドベリーで生まれ、エクセター大学を卒業。英語教師としてポルトガルに渡り、結婚・出産。離婚して帰国後、シングルマザーとして貧困からくるうつ病に苦しみながら処女作『ハリー・ポッターと賢者の石』を執筆。シリーズ完結後はロバート・ガルブレイス名義で新作も発表。

- ❖ 菱田信彦氏：同シリーズの中ではイギリス社会の階級差が風刺されている。
- ❖ 作品の中の大きなテーマの1つ…偏見・差別
- ❖ つまり作品中で描かれる偏見・差別は人々の階級差に基づくもの。
- ❖ ホグワーツ…その階級社会を維持・再生産する場、つまり現実世界ではイギリスのパブリック・スクールにあたる。

仮説：ホグワーツはパブリック・スクールではなく、また描かれる偏見・差別はイギリス社会の階級差を基にしたものではないのでは？ 何が現実世界のものを風刺しているのかわからない。

4. 仮説



川村学園女子大学文学部の菱田信彦氏は、作品中ではイギリスの階級社会が風刺されていると主張した。シリーズの大きなテーマである偏見・差別は階級差によるその批判であり、現実社会でも教育の場は階級差維持のために重要であることからホグワーツは作品中で階級維持装置として描かれているという。これに対し、作者が描きたかった偏見・差別は階級によるものではないという仮説を立てた。

- パブリック・スクールとは
- ①イギリスの伝統ある私立中等学校
 - ②一般的には寄宿制
 - ③高い授業料
 - ④ジェントルマン階層の子弟の教育の場
 - ⑤全国規模で生徒を集める
 - ⑥寮制度や監督生制度

5. ホグワーツのパブリック・スクール性(菱田)

パブリック・スクールについて説明する。これらは、パブリック・スクールの特徴である。

①イギリスの伝統ある私立中等学校、②一般的には寄宿制、③高い授業料、④ジェントルマン階層の子弟の教育の場、⑤全国規模で生徒を集める、⑥寮制度や監督生制度などが挙げられる。黄色い文字の③と④はホグワーツには当てはまらない。

- 菱田氏：階級差を維持する装置としてのホグワーツ
- ❖ 入学試験がない
 - ❖ 一学校側が一方的に選抜した生徒しか入学できない。
 - ❖ 入学できるのは希望者ではない。
 - ❖ マグル生まれの生徒も入学しているが、学校側には選ばれない限りどんなに努力しても入学は認められない。
 - ❖ ホグワーツに入学した者と入学できなかった者(マグル)の間には、決定的な力の差が生じる。

5. ホグワーツのパブリック・スクール性(菱田)

菱田氏は、パブリック・スクール、つまり階級維持の装置としてのホグワーツの特徴は、入学試験は行われず入学できるのは学校側が一方的に選んだ生徒で希望者ではない点、ホグワーツに入学した者とできなかった者(マグル)の間には決定的な力の差が生じる点を挙げている。つまり菱田氏いわく、努力で入学できるわけではなく、また魔法の力の有無が力の差を表すという。

しかし、ホグワーツがパブリック・スクールの異なる点もいくつも存在する。まず、③高い授業料についてであるが、作者の公式ツイッターに「ホグワーツの授業料は魔法省が負担するため学費はかからない」とある。また、原作本文中では、経済的余裕のない生徒を経済的に援助する制度についても言及。つまりホグワーツは貧しい生徒でも通える学校であり、パブリック・スクールの特徴とは一致しない。

ホグワーツの、一般的なパブリック・スクールとは異なる点

- ❖ ③高い授業料
- ❖ "There's no tuition fee! The Ministry of Magic covers the cost of all magical education!" (J.K. Rowling公式ツイッターより)
- ❖ 「ホグワーツには、教科書や制服を買うのに援助を必要とする者のための資金がある。…」 (『ハリー・ポッターと謎のプリンス』Ⅱ、131ページより)
- ホグワーツの授業料は無料である

6. 特権階級のための場ではないホグワーツ

ホグワーツの、一般的なパブリック・スクールとは異なる点
④ジェントルマン階層の子弟の教育の場
ホグワーツでは、純血の子供、マグル生まれの子供、ハーフの子供など、様々な子供を受け入れる。一階層は限定されていない

6. 特権階級のための場ではないホグワーツ

ホグワーツのパブリック・スクールのな点
入学試験がなく、学校側の一方的な選抜によってのみ入学者を決定する。
魔法の力を持っている子供は血筋に拘わらず入学している。
→入学が決まるポイントは
○魔法の力を持っているかいないか
×学校を選んだかどうか

6. 特権階級のための場ではないホグワーツ

ホグワーツのパブリック・スクールのな点
学校側に選ばれない限りどんなに努力しても入学は認められない
...第7巻の、ベチュニアとリリーのエピソードより
魔法の力さえ持っていれば、どんな子供でも入学が許可される。

6. 特権階級のための場ではないホグワーツ

ホグワーツのパブリック・スクールのな点
ホグワーツに入学した者と入学できなかった者の間には、決定的な力の差が生じる。
魔法の力の有無の他には、対して違いは生まれえない。
→魔法族は魔法族として、マグルはマグルとして力を持つ。

6. 特権階級のための場ではないホグワーツ

また、④ジェントルマン階層の子弟の教育の場という点について、ホグワーツには純血、マグル生まれ、ハーフなど様々な血筋の子供が入学しており、階層は限定されていない。ジェントルマン階層というのがマルフォイなど純血の魔法使いのことを指すのなら、ホグワーツは彼ら以外の生徒にも開かれた場所である。この点から、ジェントルマン階層、つまり魔法族の純血の子供たちだけのための教育の場ではない。

そして、菱田氏の主張するホグワーツのパブリック・スクールのな点にも矛盾を感じる。菱田氏は、ホグワーツには入学試験がなく、学校側の一方的な選抜で入学する生徒が選ばれるため、努力では越えられない壁があるという。しかし、入学を決めるのは学校ではなく、血筋でもない。つまり、ホグワーツの生徒は才能で選ばれている。

また、菱田氏は、ホグワーツではどんなに努力をしても、学校側が選ばない限り入学は認められないとする。これは、マグル生まれのハリーの母にホグワーツから手紙が来たことを羨ましがった妹が、自分も入学させてくれという手紙を書いて断られたエピソードによるものだ。この場合、妹の入学が認められなかった理由は努力云々ではなく、魔法の力がなかったからだ。

ホグワーツに入学した者と入学できなかった者の間には決定的な力の差が生じるという点について、逆にいえば両者間に魔法の力以外の点で違いは見られないと考える。力の差はあっても、虐げたり虐げられたりといった関係性はない。それぞれの世界の中で上から下まで階級が出来るのだ。ホグワーツに入ったから魔法の力が身につくわけではないため、ホグワーツへの入学が力を持つことにつながるわけでもない。

- ㉔ ホグワーツはパブリック・スクールのような、魔法族とマグルの間の階級差を維持する装置としては描かれていない。
- ㉕ 同シリーズの中で取り上げられる偏見・差別はマグル生まれなどに向けられたものであることに間違いはないが、それは現実社会のイギリスの階級のことを風刺してはいない。
- ㉖ それでは何を風刺しているのだろうか。

7. 結論

結論として、ホグワーツにはパブリック・スクールとしての特徴に一致しない点が見られることや、魔法族とマグルの間には上下関係は見られないことから、ホグワーツは魔法族とマグルの間の階級差を維持する装置としては描かれていない。作品の中の偏見や差別は魔法使いや魔女の中でもマグル生まれの者たちに向けられたものである。マグル生まれの魔法使いに向けられたものであり、マグルに向けられたものではない。では、自分たちと同じ能力を持ちながらも血筋が違う者たちを差別するというのは現実社会の何を風刺しているのだろうか。

- ㉗ J.K. ローリング著『ハリー・ポッターと賢者の石』松岡佑子訳、集英社、1999年。
- ㉘ J.K. ローリング著『ハリー・ポッターと秘密の部屋』松岡佑子訳、集英社、2000年。
- ㉙ J.K. ローリング著『ハリー・ポッターとアズカバンの囚人』松岡佑子訳、集英社、2001年。
- ㉚ J.K. ローリング著『ハリー・ポッターと炎のゴブレット』松岡佑子訳、集英社、2002年。
- ㉛ J.K. ローリング著『ハリー・ポッターと不死鳥の騎士団』松岡佑子訳、集英社、2003年。
- ㉜ J.K. ローリング著『ハリー・ポッターと謎のプリンス』松岡佑子訳、集英社、2005年。
- ㉝ J.K. ローリング著『ハリー・ポッターと死の秘宝』松岡佑子訳、集英社、2007年。
- ㉞ 石川隆太郎著『変わるイギリス家ならぬイギリス』日本放送出版協会、1992年。
- ㉟ 竹内洋著『パブリック・スクール 貴族の栄光とエリート』太田圭、1993年。
- ㊱ 松島理彦著『パブリック・スクールからイギリスが見える』朝日新聞社、1994年。
- ㊲ 平成24年度国語予備も国語検定課次年度検定試験問題『イギリス 貴族の専断と貴族 家給小説・貴族小説・新作家論・学校小説』国立国会図書館、2013年10月。

8. 参考文献

こちらが参考文献である。

IV. 130354 鈴木裕美



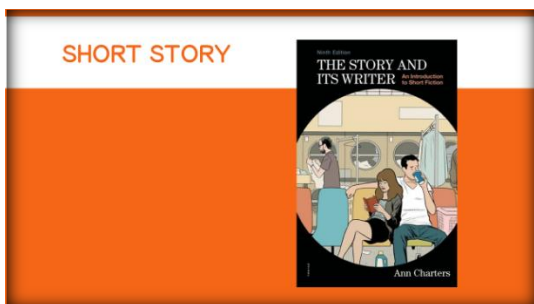
私は、2015年8月から2016年1月までの5ヶ月間ニューヨーク州立大学オルバニー校へ交換留学をした。

ニューヨーク州立大学(SUNY)は、ニューヨーク州全域で64キャンパス、6,000を超える学科と40万を超える学生を有する全米有数の巨大大学群である。

その内の一つオルバニー校は、中心校である。



キャンパスは、中央の噴水を囲むように4つの学生寮が建っている。学生寮は、Indian Quad, State Quad, Colonial Quad, Dutch Quadで、それぞれに食事をするダイニングホールがある。生徒はMunch moneyでそれぞれこの寮で食事をしてよい。バス停は2箇所あり、近くのWalmartやダウンタウンに行く生徒が利用する。



履修した授業のひとつShort Storyでは、毎回短編小説を2~3つ事前に読み、授業でクラスメートとディスカッションをした。現地の学生の話すカジュアルな英語になかなかついていけず苦勞した。しかし、中間レポートではMary Gaitskillの小説について満点の評価をもらうことができた。



ダウンタウンで開催されたLark Festでは、SUNYの多くの生徒が音楽や屋台を楽しんでいた。私も、Albany Outreach for Animalsという団体の一員として、人々に\$1を払い、酷い飼育方法で育てられている動物の映像を見せる動物保護の活動を行った。



留学中は日本人学生会 (JSA) に所属し、現地で日本語を学ぶ学生との交流や、日本文化に興味がある学生と交流を楽しんだ。また、ティーチングアシスタント (TA) として Advanced Japanese class の担当になり、生徒の質問に答えたり、宿題を手伝ったりした。

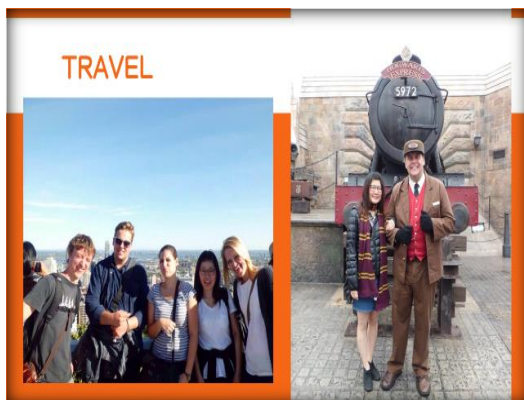


JSA は定期的に日本文化で交流を図るイベントを開催し「おにぎり作り体験」や「日本のホラー映画鑑賞会」などに参加し、友人の輪を広げることができた。



アメリカの伝統文化、サンクスギビングは、家族や親しい友人とのんびり休日を過ごすとても穏やかな日々だった。

私は、JSA のイベントで知り合ったアメリカ人の友人の家に 3 日ほどお世話になり、豪華な夕食作りの手伝いや、子供たちと遊んだり NYC や NJ に観光に行ったりした。



在学中はできる限り旅行をした。

カナダのモントリオールにバスで 6 時間程かけて一人旅をした。

ホテルで出会った人たちと一緒に観光をし、カナダのフランス語圏を満喫した。

また、フロリダでは全米 No1 ビーチ、サラソタやマイアミ、ディズニーワールドとユニバーサルスタジオがあるオーランドを旅行。

その後ワシントン D.C. でホワイトハウスを見に行った。



アメリカといったら「コミュニティサービス」が進んだ国というイメージが自分の中に入り、Human Service in the Community の授業の一環で、地元の小学校 Eagle Point Elementary School で教師のサポートをした。NYのごく普通の公立小学校であったが、15人ほどの徹底した少人数クラス、授業中はお菓子を食べながら（先生も）4人で机を向かい合わせてグループで一緒に問題を解いていくという授業スタイルで、日本の小学校との違いにとっても驚いた。



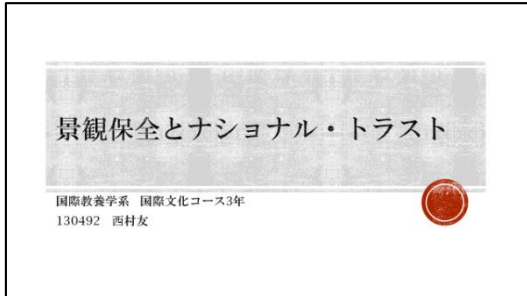
また、アップルストアへの社会化見学にも同行した。国語の授業で読んだ物語の動画作成をするのが課題であったが、Mac や iPad で優れた動画を作成する生徒たちに感心した。

まとめ

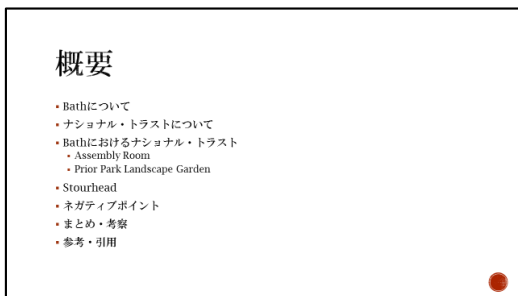


- ・毎日毎日が非常に貴重な体験の連続であった。
- ・出会った大切な友人との別れが本当に辛く、何度も日本に帰りたくないと思った。
- ・留学中、英語でレポートを仕上げたことで自信が付き、MLA式でぜひ卒業論文を英語で書きたいと思う。そしてお世話になった教授に見せたいと思う。

アメリカ生活で経験したことは、私の今後の人生の中で、最も貴重な体験の一つになると思う。
 なにより私の人生をより豊かにしてくれた大切な友人との出会いがあった。
 今後も積極的に国際交流をしていきたいと思う。



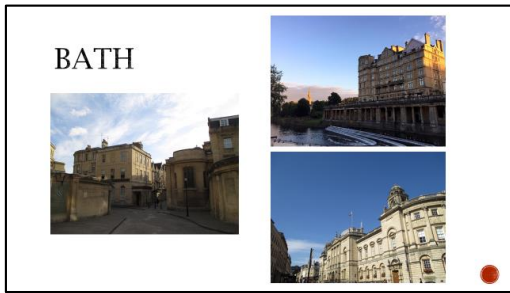
フィールドワークを終え、2週間滞在した都市バースを中心に、歴史的建造物が後世まで継承されていることを実感することが多かったと感じた。その背景には、イギリス発祥のナショナル・トラストによる景観保全運動が大きく関わっていることが分かった。そこで、バースを例に、ナショナル・トラストに登録されている場所やその役割について考えてみた。



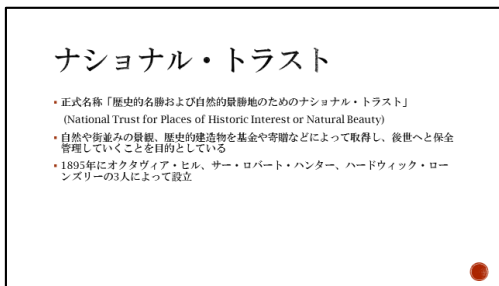
バースは都市自体が世界遺産に認定されており、クリーム色のレンガの建造物で統一された街並みはジョージ王朝時代の特徴を色濃く残している。他の都市を訪れると、バースの特徴をより強く感じる事ができた。



バースの有名観光地バース寺院とロイヤルクレッセント



バースの街並みは上述のように、クリーム色の建造物で統一されていることが分かる。



貧困層のためにオープンスペース運動を展開していた社会活動家 3 人によって設立されたナショナル・トラストはイギリスで広く普及している活動であるということができる。



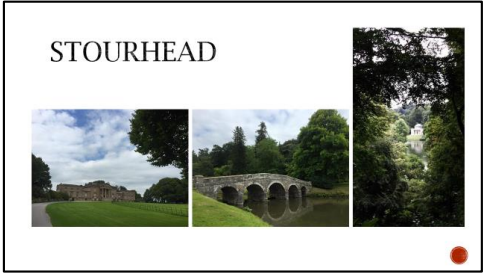
アセンブリー・ルームは 18 世紀にダンスやゲーム、茶会などに使用されたホール。建物はもちろん、インテリアや絵画も歴史を感じさせる。



併設されたファッション・ミュージアムでは過去 400 年間に移り変わった服装様式を陳列。どれも傑出したデザインのオリジナルだ。



ジョン・ウッド作品の1つ。これはバースストーンが石材として使用可能であることを証明するためである。パラディオ式建築は注目を集めた。現在、邸宅自体はカレッジとして使用されている。庭は18世紀当時を思わせるイングリッシュガーデンとしてナショナルトラストによって復元・管理運営されている。



ナショナルトラストが管理している有料施設で2番目に来観客が多い。1072ヘクタールの敷地内にはパンテノンやガーデン、大きな湖などがある。

ナショナル・トラスト

- ・来観客が生きた姿で残された歴史的遺産から感じるもの、学ぶものは大きい
- ・一般に公開することによって入場の際に来観客から収入を得ることができ、それを運営維持費として使用することができる
- ・国民にとっても、国家遺産が維持管理され続けられていることを実際に自分の目で見ることで、自らの活動への参加意義を感じることができる

↓

観光をポジティブな形で環境・景観保全に活用することに成功している

ナショナルトラストによって管理され、さらにそれを一般に公開し、実際に使用されることによって生き生きとした姿を維持することに成功している。

ネガティブポイント

- ・都市環境、歴史的建造物の破壊
- ・空気汚染の悪化

利点があると同時に、ネガティブポイントも存在することを忘れてはならない。

まとめ・考察

- バースにおいて、遺産的建造物を守り続けてきたことが観光事業で発展してきた理由の一つと言える
 - ◀ ナショナル・トラストの働き
- ナショナル・トラストは、環境保護と観光が結びついた活動を促進することに成功した環境保護団体の1つであると言える
- 「サステイナブル・ツーリズム」「エコツーリズム」
- 日本ではイギリスのように実践されている例はないのか、また同じように進めることはできるのか

日本にもナショナルトラスト協会はあるが、それほど普及してはいない。イギリスのように実践されている例はないのか調べてみたいと考えている。

参考・引用

- 虹川久康(1990)『バースの肖像 イギリス18世紀社交風俗肖像』研究社
- 末原啓吉(2000)『ナショナル・トラスト』三省堂
- 小林章夫(1989)『地上楽園バースリゾート都市の誕生』岩波書店
- Bath & North East Somerset Council HP
<http://www.bathnes.gov.uk/services/your-council-and-democracy/local-research-and-statistics/wiki/tourism-and-visitor-economy>
- National Trust HP
<http://www.nationaltrust.org.uk/>
- UNESCO World Heritage Centre HP
<http://whc.unesco.org/>
(最終閲覧日 2015年10月12日)

VI. 130463 中川南海



私は、イギリスで訪れた3都市のうちロンドンをテーマとして取り上げた。イギリスの偉人の一人であるシェイクスピアが、出身地であるストラトフォード・アボン・エイボンからロンドンに出て演劇の世界で一躍有名人になるまでの経緯と当時のロンドンの様子に迫る。

疑問

- なぜシェイクスピアはロンドンへ移住したのか
 シェイクスピアの出身：ストラトフォード・アボン・エイボン（オックスフォード近郊）
 ⇒ロンドンへと移住、劇作家としての人生が始まる
- なぜサザーク区にグローブ座を建設したのか
 中心からテムズ川を挟んだ場所に位置している

今回、調査にあたって2つの疑問をたてた。まず一つ目は「なぜシェイクスピアはロンドンへ移住したのか?」。そして二つ目が「なぜサザーク区にグローブ座を建設したのか」である。

William Shakespeare (1564~1616)

- ▶ イギリスの劇作家、詩人、役者
- ▶ 出身：ストラトフォード・アボン・エイボン
- ▶ 青年時代にロンドンに出て初め俳優、のち劇作家として約37編の戯曲を創作する
- ▶ 今日の英語の基礎を築いたとも言われている
- ▶ 喜劇、悲劇、史劇と、幅広いジャンルにわたる
- ▶ 代表作：四大悲劇『オセロ』『ハムレット』『マクベス』『リア王』

シェイクスピアの概要。イギリスの劇作家であり、詩人、役者でもある。青年時代にロンドンに出てから約37編の戯曲を創作し、今日の英語の祖とも言われている。作風は喜劇・悲劇・史劇と幅広く、その代表作には四大悲劇『オセロ』『ハムレット』『マクベス』『リア王』などがある。

ロンドン

▶ **当時のロンドン**
 活気に満ちた街
 人口：およそ50万人（イギリスの人口：300~400万人）
 ⇨ストラトフォードの人口：1000人ほど
 ベストの流行から1世紀遅った頃のエリザベス朝

急速な変化の時代でもあった
 ⇨人口の半数が20歳以下
 人口の1割が**徒弟**
 職工賃見習いのために職方の下で働く少年、小僧。

市街にはエネルギーが湧き溢れており賭博、豪引き、娯楽などの雑音で満ちている。外見上はまだ中世の面影も残る。市には古代の城壁や門、大寺院が散在している。

彼がロンドンへ出た経緯を探るため当時のロンドンについて現地の展示物から情報を得た。当時のロンドンは急速な発展に伴った産業の繁栄によって若者がその人口の半数、そしてその内の一割が商工業見習いの小僧が占めており、大変活気に

ロンドン

- ▶ 当時のロンドン
 “冒険の時代” “新規プロジェクトの時代”
 ⇒ 株式制度の会社
 ⇒ 植民地経営の考え方

伝統的な家系よりも社会的な繋がりが重視される時代
 服装が重視される

産業の繁栄がもたらした好景気は当時のロンドンの人々を新規プロジェクトへと駆り立て、株式制度の会社や植民地経営の考え方など、これまでになかった斬新なアイデアが次々と誕生した。

ロンドン

- ▶ 当時の劇場
 劇作家や役者 < 衣装

劇場ができたのもこの頃だった
 ex) シアター座、カーテン座
 劇場：社会的、政治的なメッセージを伝達する場
 かつて教会における説教が果たしていた役割

劇場における衣装は仕舞なものとなり、市中でも演劇的な視覚効果が現実理解のための主要な手段となったのがこの時期

そんな当時の劇はというと、劇作家や役者よりも衣装が重要視されていた。劇場が作られ始めたのもこの頃であり、シアター座やカーテン座が誕生。

当時の劇場とは単なる娯楽の場にとどまらず、社会的・政治的なメッセージを伝達する場というかつて教会での説教が果たしていた役割を担う存在になっていた。

ロンドン


- ▶ ローズ座
 シェイクスピアがロンドンに出てきた頃に建設された
 サザーク区に位置する
 ローズ：(意) 売春婦
 収容観客数：1900人
 ⇒ 5年後に改装され2400人に
 現在の劇場スペースに比べ3倍近く
 の人を詰め込んでいた




シェイクスピアがロンドンに出てきたであろうと言われている頃建設されたのがサザーク区に位置するローズ座である。ローズとは当時売春婦の意味を指していた。ローズ座の収容観客数は1,900人、5年後に改装され2400人になったものの当時の劇の人気はすさまじく現在の劇場スペースに比べ3倍近くの人を詰め込んでいたとされている。

ロンドン

- ▶ グローブ座
 木造円筒形の建物
 ⇒ シェイクスピアが活躍したエリザベス朝当時のものを再現
 ▶ 1階は土間の立ち見席、2～3階が栈敷席
 ▶ 屋根がないため、雨の日の観劇は少し不便である
 ▶ 一度火事によって焼失している
 ⇒ 当時のスケッチや同時代の劇場の設計図を基に再建



そしてシェイクスピアが建設したとされるグローブ座について。写真は現在再建されて残っている実際のグローブ座を訪れた時のものである。1階が土間の立ち見席で2～3階が栈敷席。屋根がないことが特徴。

サザーク地区

- ▶ 16世紀後半のロンドン
London in the late 16th century was a thriving, growing city. London **doubled in size** between 1550 and 1600. By 1650 it had doubled again and, with a population of around 400000, was **the largest city in the world.**
- ▶ 世界有数の大都市となっていたロンドン
・ Southwark 地域：グローブ座が建設された地域
SOUTHWARK had become a busy suburb of the city of London and the route to the south of England

グローブ座が建設されたサザーク地区の当時の様子について、現地の展示によるとロンドン郊外でありながら非常に栄えていたこと、またイギリス南部に行く際の通り道としても需要があったことがうかがえる。

サザーク地区

▶ 当時のサザーク地区

- ①ロンドン郊外だが非常に栄えた地区だった
ex) Borough high street, London bridge...
- ②ロンドン都心の人々が娯楽を求めて訪れる地域
←多くの売春宿やスラム街に近い場所が存在
- ③古い時代から娯楽のための施設があった
ex) 剣闘士奴隷の骨、三つ又のほご出土

サザーク地区は、演劇を行うのに適く需要が数多く詰まった地区だった！

また、当時のサザーク地区は売春宿に近い場所が存在しロンドン都心部の人々が世俗的な娯楽を求めて訪れる地区であった。また古来より余興の施設があったこともあり、ロンドン周辺での娯楽の場として親しまれていた。そこから当時のサザーク地区は民衆に向けた演劇を行うために向く要素が数多く詰まった地区であると考えられる。

結論

▶ 1. なぜシェイクスピアはロンドンへ移住したのか

当時のロンドン：人口が増え、街の成長が著しかった時期
娯楽として劇が浸透し始めた時期
⇒単身赴任でもロンドンで成功をつかみかけた

▶ 2. なぜサザーク区にグローブ座を建設したのか

サザーク区：ロンドンの中でも特に栄えた地区だった
河沿いのためアクセスが良い場所に位置していた
歴史的にも余興や娯楽の絶えない地区だった

疑問の答えとして、シェイクスピアがロンドンへ移住したのは当時のロンドンが街の成長が著しかった上に娯楽として劇が浸透し始めた時期でもあり、劇作家としてデビューするのにふさわしい地であったためであり、彼がサザーク地区を活動の拠点とした理由としては、サザーク区がロンドン郊外であるにも関わらず非常に栄えた地区であったため、また古くから当時に至るまで娯楽の絶えない地区として民衆にしたしまれていたためであると、結論付けた。

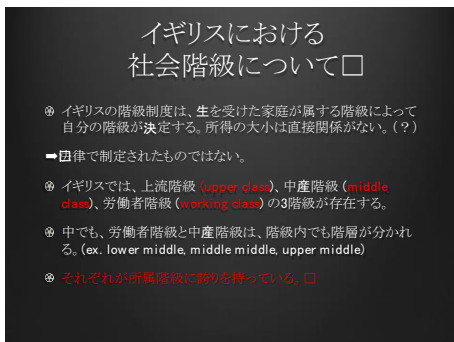
参考文献

- ▶ 結城雅秀著 『シェイクスピアの生涯』 勉誠出版、2009年
- ▶ フランク・カーモント著、吉澤康子訳 『シェイクスピアと大英帝国の幕開け』 ランダムハウス講談社、2008年
- ▶ 小室金之助著 『法律家シェイクスピア』 新潮社、1989年
- ▶ 福田和朗編 『シェイクスピアがわかる。』 朝日新聞社 1999年
- ▶ 岩崎宗治著 『シェイクスピアの文化史』 名古屋大学出版会 2002年

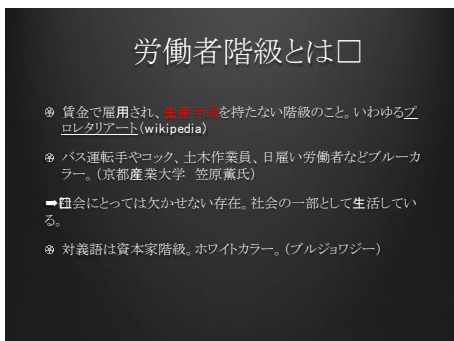
VII. 130521 濱中啓太郎



私は、イギリスにおける労働者階級についての研究を行った。



イギリスには社会階級というものが存在する。位の高い順に、上流階級、中産階級そして労働者階級という順番である。その中で、労働者階級そして特に中産階級は一つの階級内でも序列が存在する。また、イギリス国民は、生まれた家庭がどの階級に位置しているのかで自分の階級が決定する。



労働者階級とは、定義として賃金で雇用され生産手段を持たない階級のことである。バスの運転手や土木作業員などである。労働者階級がいなければ社会が成り立たない。社会にとって欠かせない存在である。



生産手段とは、労働と結合して生産物を生み出すための要素をさす。バス運転手であれば、バスが生産手段である。資本家が生産手段と労働力を買取り、商品を生産している。

労働者階級を定義する□

- ⊗ 労働者階級は基本的に中産階級に雇われる。
- ⊗ 雇う中産階級＝自分の利益のために、労働者階級を雇う。
- ⊗ 雇われる労働者階級＝中産階級の下で働かされるが、仕事によって人の役に立つ、そして社会の原動力となる。
- ➡ □ 労働者階級とは、中産階級が提供する生産手段をもとに働く人々のことであると定義する。

ここで私なりに労働者階級を定義する。労働者階級とは、基本的に中産階級に雇われる。つまり、労働者階級とは中産階級が提供する生産手段をもとに働く人々のことであると定義する。

産業革命のあとに□

- ⊗ 産業革命によって、イギリスの資本主義社会は加速していった。中産階級の成長、労働者階級の出現。具体的には、身分のようなものが、資本主義社会の確立によってそれが社会階級となったのではないかな。
- ➡ □ 雇う中産階級、雇われる労働者階級の関係が確固たるものとなる。

産業革命によって、イギリスの資本主義社会が加速し、雇う雇われるという関係が確固たるものとなったと考える。

労働者階級は雇われるだけの人間なのか？□

1. 中産階級が会社を動かす。
 2. 生産することによって、利益が生まれる。
 3. 利益を生産しているのは労働者階級である。
 4. 労働者階級は賃金制のため財力を確保することができない。
- ➡ □ 労働者階級は、生産手段を持っていないため、雇われるだけの人間である。
- (?)□

そこで、労働者階級は雇われるだけの人間であるのか。私の結論としては、生産においてその利益を生むのは労働者階級であるが、利益を搾取するのが中産階級であり、労働者階級は賃金制であることから労働者階級は雇われるだけの人間であるということである。

反例として□

(アーティストやサッカー選手などの金持ちの労働者階級が、ハウスキーパーとして労働者階級を雇った場合。)□

- ⊗ このケースでは、労働者階級内で、雇用する・されるの関係が生まれる。□

しかし反例として、スポーツ選手やアーティストなど自分で富を得た労働者階級の人間が他の労働者階級を雇った場合、労働者階級内で雇用する・されるの関係が生まれる。

仮定に対する答え□

- ⊗ 「労働者階級とは、中産階級が提供する生産手段をもとに働く人々のことであると定義する。」という仮定は正しくはない。
- ⇒ ①すべての労働者階級の人々が当てはまる訳ではないから、これが完璧な定義とは言えない。

ここで私が仮定した労働者階級の定義は正しくないと言える。全ての労働者階級の間が中産階級の下で働いている訳ではないからである。

参考文献□

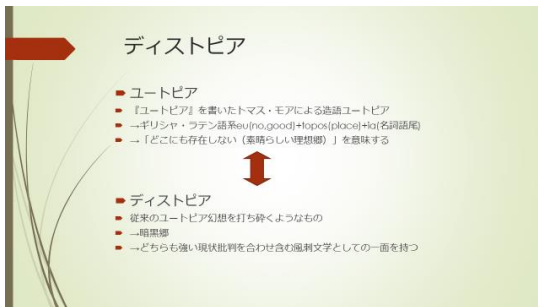
- ① <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8B%B3%E7%94%B3> 2015/12/8閲覧
- ② <http://www.sociology.or.jp/~socio/kyougi/kyougi01.html> 2015/12/8閲覧
- ③ <http://blogtimes69.fc2.com/m/a/g/magicaldoor2009/8886d4782d78233042407ac49771ebc.jpg> 2015/12/8閲覧□
- ④ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8B%B3%E7%94%B3> 2015/12/8閲覧
- ⑤ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8B%B3%E7%94%B3> 2015/12/8閲覧
- ⑥ <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%8B%B3%E7%94%B3> 2015/12/8閲覧
- ⑦ <http://www.pengfu.jp/v/17/>
http://www.pengfu.jp/v/17/ 2015/12/8閲覧

左記が参考文献である。

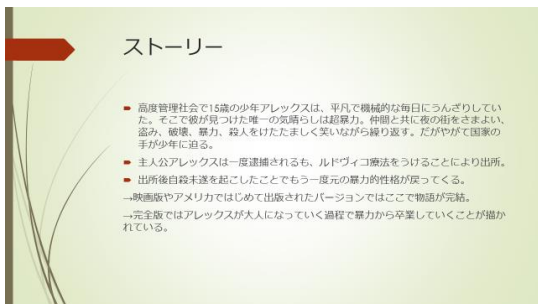
VIII. 130651 森屋敦正



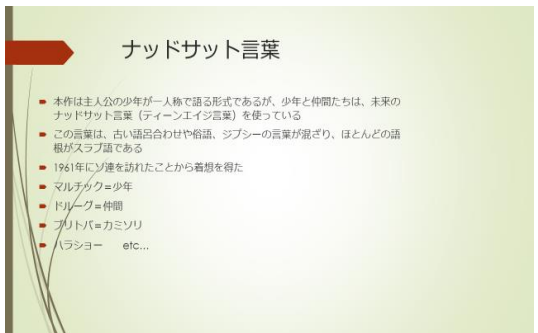
私はフィールドワークに参加することが出来なかったため、以前より関心のあったアントニイ・バージェスの著作『時計じかけのオレンジ』を読み、作品分析を行った。以下では自分なりの作品分析についてまとめていく。



まずディストピアという言葉についての定義づけを行い、ここではユートピアの対極に位置する概念であり、望ましくない世界を描くことで、現実世界を風刺するものであると定義づけた。



ストーリーとしては、数々の暴力行為を行う主人公アレックスが警察に捕まり刑務所に入れられるも、ある実験の被験者となることで、出所することを認められるというものである。実験については後に記述する。



この作品の一つの特徴としてあげられるものに、ナッドサット言葉がある。スラブ語が語源といわれている言葉であり、若者言葉である。この言葉が非現実感を生み出す一つの要素ではないかと考えた。

ルドヴィコ療法

- 被験者に投薬し椅子に縛り付け、クリップで見開いた状態にまぶたを固定
- 猿虚描写に落ち落ちた映像をただじっと鑑賞させ続けるもの
- 暴力や性行為に生理的拒絶反応を引き起こすように暗示
- 映像のBGMに使われていたのは、彼が最も敬愛するベートーヴェンの第九
- 治療以後、性行為や暴力行為に及ぼうとすると嫌悪感を覚える

上記で言及した実験がこのルドヴィコ療法と呼ばれるものである。強制的に数々の暴力的な映像を見せ続けることで、主人公アレックスが、暴力行為を行おうとすることに生理的拒絶反応を植え付けようと試みたものである。

時計じかけのオレンジ

- アレックスが暴力を振るうために押し込んだ作家の家で見つけた本の題名
- “このごろリユーディ・ひとびとがみんな機械にされちゃって、ほんとは・・・みなさんもおれも、あの人も他誰でも・・・ちよど果物みたいなもんで、自然の産物なんだ”
- 子供か、子供を持っているもの、病気のものを以外は全て働か出なければならぬ法律
- 政府に管理され、社会を動かす歯車の一部として機能させられている
- ルドヴィコ療法によって暴力的などに対する嫌悪感を強制的に植えつけられたアレックス

本の題名となっている時計じかけのオレンジという言葉について考察を行った。ストーリーのなかには、アレックスが強盗に入った家で、作家が執筆していた作品として登場する。実験によって、正常な感情を維持することを植え付けられたアレックスの隠喩ではないのかと考えた。

批判・風刺の対象

- 政府
 - “善といつものは、心の中からくもるもので選ばれるべきもの”
 - “人が善を選ばなくなった時に人は人であることをやめる”
 - “全体主義政府にネジをまかれるだけのおもちゃ=時計じかけのオレンジ”
- 警察
 - かつての不良仲間が警察になって暴力を振るう
 - 強制的に不良、強盗などを排除
- 刑務所
 - ルドヴィコ療法による収監者の削減

ディストピア作品を現実を風刺するものと定義づけたことを受けて、その対象について考察を行った。極端な全体主義的政策を行う政府や、横暴を繰り返す警察を風刺しているのではないのかと考えた。

まとめ・考察

- ナッドサッド言葉
 - 言葉遊びでディストピア作品へのとっつきにくさを軽減
 - 当時のソ連批判
- 行き過ぎた全体主義的政府への批判
 - 近未来社会を舞台にしているとされるが、実際には現代社会と近いように描写
 - いつでも起こりうるという警鐘
- 若者の超暴力についてはあくまでも若気の至りとしている
 - 筆者自身も最終章を付け加えるか迷っていた
 - 強烈性は薄れるが若者への教訓となるのでは

まとめとしては、作者が作品を執筆した当時の行き過ぎた全体主義的な風潮に対する警告を行うと同時に、この作品に表れるような危険な状態が、いつでも起こりうるという警鐘をならしているのではないのかと結論付けた。

参考文献

- アンソニー・バージェス『時計じかけのオレンジ』 乾信一郎訳、早川書房、2008年。
- 上田和夫編『イギリス文学辞典』 研究社、2004年。

以上が参考文献である。

4. The Diary

【Friday, 31 July 2015】

【Saturday, 1 August 2015】

- 羽田空港にトム・クルーズがいた。
- パリで搭乗手続きしようとしたら、EU加盟国以外の人はまだと感じ悪く言われた。
- パリの免税店の人は、開店時間前にお店を開けてくれて優しかった。
- ロンドンの税関は厳しめで丁寧だった。
- ヒースロー空港内の電車でもりちゃんとはぐれ、カフェネロで再会。
- バースへのバス乗り場ではいろいろな地方へ向かうバスが出ていて、バスは時間通りに来ないし乗り場が予測不能だった。
- John Wood Court のフロントの黒人の女性はとても親切だった。
- Mr. B's Emporium of Reading Delights という書店のスタッフの人はとっても親切。オースティンについてもりちゃんと議論していてさすがイギリス人の書店員さんだなと感心した。
- 夜になっても明るく、クラブのようなお店には若者が集まる。
- 夜、お湯の出し方が分からず聞ける人を探しにあかねちゃんと外に出た。フロントはもう閉まっていた。カードキーを忘れて建物に入れないでいたイギリス人の男の子3人に逆に声をかけられ、ドアを開けてあげてその代わりにお湯の出し方を教えてもらった。
- スーパーはとても大きくて、食料品からアナ雪のドレスまでなんでもそろっていた。

【Sunday, 2 August 2015】

- バスに乗って Chippenham という街に行った。
- 2階建てバスがたくさん通るからか、街路樹の枝がバスに当たらないような形になっている。切っているのか枝が自分でそういう風に伸びているのかは分からない。
- 喉が痛くて声が出なかったのでマスクをしていると、地元の人には結構じろじろ見られる。やっぱり日本人ほどマスクする人はいないのだろうか。
- Mr. B's に行って Harry Potter の 1st Edition を探していると言ったら、もう印刷されていないので仕入れることはできないが、もしかしたらロンドンの Harry Potter shop にはあるかもしれないよと教えてくれた。予想以上に親切で感動した。
- Roman Bath の売店でおそらくローマ語バージョンの Harry Potter を見た。Harrius Potter になっていた。

【Monday, 3 August 2015】

- 学校初日。
- 朝フロントの人が教えてくれたバス停に行こうとしたら、別の日本人集団が別のバス停で待っていた。それでもフロントの人の言葉を信じて言われたバス停に行くと、さっきの日本人集団が来たバスにすでに乗っていた。
- バスが時間通りに来ないので、時刻表も日本のように時間が書いてあるのではなく、バス到着まであと何分といったような電光掲示になっていて、バスの遅れによって変動する。こういう表示にしないでほぼ時間通りに到着できる日本の交通機関はすごいなと思った。
- 配られたバスの回数券は10回使えるものが2枚で、運転手が専用の機械やペンで適当な場所に穴を開けてくれる。
- 中国人の第一印象はやたら仕切りたがる。
- 中国人と日本人の全体に占める割合がすさまじかった。西洋人は全体の1/6もない。
- スピーキングのテストは中国人2人とグループだった。2人とも私よりも英語が上手で、落ち込んだ。
- キャンパスツアーでの皆の歩くスピードが速すぎる。
- クラス発表では、友ちゃんとみなみちゃんと同じクラスになった。メンバーは他に日本人2人と、イタリア人1人と中国人5人。
- 先生はCal先生。キャロライン先生。ウェールズ育ち。専門は英語で、歴史小説と泳ぐのが好き。
- チームタスクでは中国人のゾーイと日本人のひかちゃんと一緒にだった。やっぱり日本人は中国人に押され気味。
- バスの運転手さんにTA!と言われる。多分Thank youの意味。それはオーストラリア英語だと思っていたので、イギリスでも使うのかと驚いた。
- あかねちゃんとみなみちゃんと夕食の準備。皆で食卓を囲みました。
- キャラメライズドオニオンっていうドレッシングがおいしい。
- アイスのパッケージが頑丈すぎて、開ける時に指をけがするかと思った。
- 洗濯がややこしい。何で普通のコインランドリーにしないのだろう。

【Tuesday, 4 August 2015】

- 中国人は人の意見をスルーする傾向がある。相手の言っていることを認めたくないのか、それとも相手の言っていることの意味が分からないのか、分からないことを認めたくないのか謎。
- 中国人は自分の国が好きらしい。自分の国の料理のほうがイギリスの食べ物よりも優れているといったら先生をちょっと怒らせたり、イギリスの水は汚いかのような発言をしてまた先生をちょっと怒らせたりしていた。また、日本人は入試で英語と中国語を勉強するのかと聞いてきたりもした。自分の国の言葉を勉強することが日本人にとって重要なことだと本当に思っているのだなと本当に驚いた。
- 中国人は自発的に発言するわりに言っていることや英語が間違っていたりする。きっと「正しく話

す」といことよりも「自分の意見を伝える」ということを重要視しているのだろう。

- 自分から話してみたい人に話しかけに行ったらすごく楽しかった。
- あかねちゃんのクラスに、日本大好きな中国人がいた。日本人や日本のことをすごく褒めてくれて嬉しい。
- 買い物に行ってくれたももりちゃん友ちゃん小谷ちゃんが不審者に会ったらしい。I' m starving と言って着いてきたり phone number 教えて～って言ってきたりしたらしい。

【Wednesday, 5 August 2015】

- 中国人は人の言うことを聞かないし中華思想っぽいと思っていたが話してみるといい人。中国の教育の方法が原因で性格が違ってくるのかなと思った。
- 福岡ガールズは口も悪いし適当だし協力的ではない。いつも集団でいて、勉強しに来ているというより観光しに来ているみたい。
- ミートパイがおいしい。
- アメリカのサブウェイはすごく大きかったけれど、イギリスのサブウェイは日本のと変わらないサイズだった。

【Thursday, 6 August 2015】

- 今日は初めてプロジェクトの授業があった。わたしは Art のクラスで、先生は巢ピーキングのときのベンでした。同じくスピーキングが一緒だったキャサリンと、あかねちゃんのクラスのセリーナと、普通のクラスが一緒のペギーともえちゃんも一緒でした。
- 中国では LINE は合法ではないらしく、皆 LINE に似た別のアプリを使っていた。
- シェリーと授業中のディスカッションで中国の大気汚染について話した時、中国の大気汚染はわたしは思っているよりもずっとひどいものだと思った。人々はマスクをつけていないと病気になってしまうらしいし、1年に200日以上の日には青空を見ることができないらしい。
- Bristol は Shaun the Sheep の街。
- 帰りに皆とふらっと立ち寄った古本屋さんで、ずっと探していた Harry Potter の 1st Edition を見つけた。Mr. B' s の Ed のアドバイスのおかげで古本屋さんを探して見つけることができたので、本当に感謝。しかも古本だったのでとても安く、3冊買ったなら1冊ただになって、炎のゴブレット以外の6冊買ったのにも拘らず11ポンドだった。
- 一旦寮に帰ってから、Sainsbury よりも安いらしい TESCO というスーパーに買い物に行った。実際そんなに変わらなかったし、Sainsbury の方が広くて品揃えがよかったかもしれない。そのあと Sainsbury にも行った。
- その後、学校のイベントの1つだった native English speakers と話す very very great opportunity だという会合に行った。しかし、会場に全員入り切れなそうだったし native speaker の人数も外国人の学生の数に対して少なそうだったのでパブに行くことにして抜け出した。公園に入ると、皆瞬間的に童心に帰って遊んだが、あかねちゃんが転んだことで正気に戻った。地元

の子供に What' s happen?と心配された。

- 公園を出てパブに向かって歩く道端に黒猫がいたので抱っこして写真を撮った。後からもとえちゃんに聞いた話によると、イギリスでは猫は屋外に出てはいけないという決まりがあるらしく、黒猫に会えたわたしはラッキーでした。
- ももりちゃんから、Bath Abbey のはしごを上る天使たちのいくつかは上っているのではなく地獄に向かって下がっていて、そういう天使は首がないということを知り、通りすがりに見ると本当に首がなくて怖くなる。何で地獄に下りようとしているのだろう。
- 次の日プロジェクトの授業で Bristol に行く予定だったこともあり、パブに着く前にわたしと小谷ちゃんはギブアップ。家に帰る途中で小谷ちゃんと道が分からなくなり、地元のおばさんに尋ねると優しく教えてくれた。
- 途中カフェでホットチョコレートを買う。夜になるとカフェにも若者が集まり、楽器を演奏しそうな人もいて賑わっていた。
- 明日の Bristol でのグループ行動では日本語が通じる相手がいないので、英語を頑張ろう！

【Friday, 7 August 2015】

- 午前中はプロジェクトで Bristol に行って、ストリートアートを見てきた。Bristol は urban city だった。様々な模様の Shaun the Sheep がいっぱいいた。
- ストリートアートについて街の人にインタビューしてそれらが好きかどうか尋ねると、かっこいいから好きだという人もいる一方で汚いから嫌いだという人もいて賛否両論だった。その街のシンボルともなっているようなアートでも、全員がそれを好きとは限らないことに気づいた。私も正直汚いと思うし、一般市民が自由に街中でアーティスト活動してしまうと無秩序になるのではないかと思う。
- ペギーとタピオカジュースを飲んだ。店員さんも 1 人しかいなくて出てくるまでに 10 分もかかって、怒ってはいないが日本ではありえないと思った。
- バスも電車も時間通りに発車しない。
- 同じグループの中国人たちはいい子だが、昨日ベンがくれたいろいろ書き込みがしてある Bristol の地図を全員が全員忘れてきたことには驚いた。わたしのものを貸したが、ぐしゃぐしゃにされて、しかも返してもらえなかった。人から借りたものはそんなに粗末に扱ってはいけないと思う。
- 電車の中が、食べ物が散乱していたりして汚い。こぼしたまま帰る乗客も乗客だが、清掃員はいないのだろうか。
- ペギーが帰りの電車ですっとお母さんと電話しているのを見て、電車の中で電話するのはマナー違反だと思っていたわたしは驚いた。
- 帰ってから皆と合流してファッションミュージアムに行った。ドレスを着てみたが、日本人のわたしが着るとやっぱりゴスロリみたいになった。西洋人の女の子はとても似合っていた。あと、コルセットがあるのとないのとではまったく見栄えが違う。
- 細かい虫がいっぱい飛んでいた。

- Thermae Bath Spa に行った。列ができていて、割と混雑していた。
- 更衣室は男女分かれていなかったが、完全な個室だった。
- 屋上のプールからは、気球と、虹が3本も見えた。写真を撮りたかったが、カメラは持って行ってはいけなと言われてロッカーに置きっぱなしだったので取れなかった。他人の水着姿とかが写りこむと問題があるからだろうか。

【Saturday, 8 August 2015】

- 皆で Stonehenge に行くことになった。予約は昨日の夜にした。
- Bath Spa station のカウンターでは、Salisbury 行きの電車はないと言われた。アジア人の子供だと思ったのか、結構態度が悪かった。
- 電車の中は、予約席にはチケットがささっているシステムで、これはウィーンからブダペストに行ったときの電車と一緒だった。
- Salisbury から Stonehenge 行きのバスに乗ろうとした時も、係のおじさんにすごく嫌な態度をとられた。また差別か。
- Stonehenge はすごかった。巨人が組み立てた説、ラピュタから降ってきた説、地面から生えてきた説などを話して、おもしろかった。
- イングランドで一番高さが高いという Salisbury 大聖堂に行った。さすがの高さで、高すぎて遠すぎてはりぼてみたいだった。
- 2015 年は 1215 年のマグナ・カルタから 800 年ということで、800 と書いてある兵隊みたいな人形が置いてあった。
- 大聖堂の上まで入れて全員の写真を撮ってもらいたくて現地の人に頼むと、写真は撮ってくれたが大聖堂が上まで入っていなかった。こういうことが他の場所でも何回かあって、写真のセンスを疑う。

【Sunday, 9 August 2015】

- オースティンツアーに行った。腹痛と風邪で体調が悪く、着いていくので精一杯だった。参加者の女の子が Harry Potter に出てくるラベンダーに似ていたのでわたしたちはラベンダーと呼んでいた。ラベンダーはダーシーと話したがっていたが、話しかける勇気がないらしかった。

【Monday, 10 August 2015】

- 今朝は、雨のせいかバスが遅れていて、2本同時に来た。
- あかねちゃんのクラスメイトの日本人の女の子が、ワーナーのスタジオツアーを予約しようとしたけどもう予約がいっぱいで、9月からしか空いていなかったと教えてくれた。絶望したが、何回もサイトを見るとその度に予約可能な日程が変動することに気づいた。
- そこで何百回もサイトにアクセスして、ついに17日のツアーを予約することに成功した。最後にはツアーに行きたい人全員が同じ日の近い時間でチケットを買うことができた。わたしは18:30から

のツアーだが、3時間でも見足りないと思うので悲しかった。実際の予定がどうなるか、現地に行ってみないとどうにも予想しづらいというものもあったが、前日予約でも大丈夫という情報を信じて前々から予約しておかなかったことを後悔した。

【Tuesday, 11 August 2015】

- 授業で本の話をした。
- 皆、manga は男が読むものだと思っているらしく、日本では少女マンガなどもあって女性も普通にマンガを読むこととのギャップに驚いた。
- 風邪で咳をしているわたしに先生が、「まゆはわたしが暑がって窓を開けてばかりいるから咳をしているのよね。ごめんなさいね」と言ってきた。逆に申し訳ないです。
- 授業で出てきた、トマス・ハーディの『ダーバービル家のテス』を読みたい。
- あかねちゃんから聞いた、妊娠した女の子の話の中で誰が一番悪いかという問いの答えが日本人と中国人では違うということに驚いた。その話では、若い女の子が妊娠して、彼氏にそれを告げると自分の子とは限らないからといって見捨てられ、親からも見離され、しばらくかくまってくれた友達も結婚するからといって女の子を追い出してしまう、1人で子供を頑張って育て、時にはお金を稼ぐ手段として売春もした女の子の息子は、最終的には母が売春をしていたことに幻滅して母親を見捨て、女の子は最終的に1人になるという話だ。わたしたちは、いくら若くして妊娠してしまったからといっても実の子供を見捨てた親が一番悪いと思ったのだが、中国人は口をそろえて、最後に母親を見捨てた息子が悪いと言った。中国人のクラスメイトは、中国では大学を決める際や結婚や就職などにも親の意見が強く影響すると言っていたし、そういう中国の伝統なのだろうなと思った。しかし、実の子供を見捨てた女の子の両親は罪に問われないのに、母親を見捨てた息子みは罪があるというのは理不尽ではないだろうか。
- Harry Potter を今英語で読んでいますと先生に言ったら、褒めてくれた。
- 夜にプロジェクトのグループで集まった。風邪を引いているのでマスクをしていくと、なんでマスクをしているのかと聞かれた。風邪を引いているからだと言えると、中国人は風邪のときにはマスクはしないけど、大気汚染でマスクするよと自虐ネタで返ってきた。風邪のときにマスクしないで、周りの人にうつたらどうするのだろう。
- 授業中に Harry Potter の話をしたときに、先生があればスラングがいっぱい出てくるから難しいと思うと言って、ハーマイオニーのことを指すがり勉のスラングを教えてくれた。スウォットみたいな。

【Wednesday, 12 August 2015】

- Inventions について授業でやった。
- グーテンベルクの活版印刷のことを中国人が知らなくて、驚いた。中国の印刷術を参考にして作られたのが西洋の活版印刷だったと思うので、中国人が知らないのはもったいない。わたしの説明が悪くて、単語と事柄が繋がらなかつただけかもしれない。

- 咳をしていたからか、授業中全くあてられなかった。
- 20:00からはまたプロジェクトの練習。わたしはプレゼンテーションのために英語をゆっくり話しているのではなくて、慣れないから速く流暢に話せないだけなのに、まゆのスピードがプレゼンには理想的だと言われて気まずかった。

【Thursday, 13 August 2015】

- 今日の授業は発音についてだった。
- This is the house that Jack built!!
- 2コマ目はSALCで読書。Never Let Me Goを読んでいたが、途中で咳が止まらなくなっていたら先生がのどあめをくれて、外に行ってきたでもいいよと言ってくれた。本は結局ポロシャツのシーンまでしか読めなかった。
- 午後のクラスは授業の発表。友ちゃんのmusicのクラスと合同でした。
- 友ちゃんのクラスはほとんどが福岡ガールズで、福岡ガールズはプレゼンも全く準備をしてこなかったらしく、呆れた。他人の発表の最中にこそこそと発表の打ち合わせを始め、プレゼン本番の最中にもこそこそと日本語で打ち合わせをしていた。先生からの質問にも答えられていませんでした。せっかくの留学の機会なのに、不真面目にやっていたはお金ももったいないです。
- 寮に帰ると加藤先生が登場しました。
- Nando'sでごはんを食べた。注文がうまく伝わらなくて2個分のお金を払ってしまったけど、説明したらちゃんと返してくれました。
- ディズニー公式ツイッターが8月6日に「なんでもない日おめでとう」とかつぶやいて問題になったらしい。

【Friday, 14 August 2015】

- 最後の授業はゲームだった。Golden Shotというゲームとボードに書いた的にボールを投げて当たったところの collocation を答えるというものだった。2つ目は Just a minute という、テーマに合わせて1分話すゲームだった。
- 最後のお別れ会では music クラスの歌を聴いた。
- THE BATH BUN にアフタヌーンティーを飲みに行った。ケーキやサンドイッチやスコーンも含めて、友ちゃんとシェアしてちょうどいいくらいだった。
- 店員さんがダニエルに似ていて、一緒に写真を撮ってもらった。
- Roman Bath と Bath Abbey に行った。
- 最後に Mr. B's に行って、Harry Potter を無事見つけたことと、明日からオックスフォードに行くことを話すと、また戻ってきてねと言ってくれました。Harry Potter に関しては、わたしが探していたことを覚えていてくれて、感動しました。

【Saturday, 15 August 2015】

- 今日からオックスフォードでした。
- 泊まるキーブル・カレッジは古くて雰囲気のある建物でした。白人の係員の人が部屋まで案内してくれて、全員のキャリーを部屋まで運んでくれた。
- 移動中の電車で、置き場所が他になかったので小谷ちゃんのキャリーを座席に乗せていたら、知らないおじさんに What' s up!! と怒られた。
- ボドリアン図書館に行って、 Hogwarts の医務室を見た。
- Christ Church ではグレート・ホールが本当に Harry Potter の世界でした。アリスのステンドグラスも、係のおばさんに教えてもらって見つけました。そのおばさんに、なんでここが Hogwarts の食堂のモデルとして使われることになったのかと聞くと、作者の J. K. Rowling がそれを希望したかららしい。映画の中の食堂の壁にはこのようにたくさんの肖像画は飾っていないが、肖像画達の目線があって誰かに見られているような感じがするのもよかったのかもしれないとその人は言っていた。
- Christ Church は実際には撮影に使われておらず、モデルになっただけ。機材をオックスフォードまで運ぶのも大変だし、ホールの大きさも足りないために、ロンドンのスタジオに同じようなホールが作られた。
- 次に同じくオックスフォード大学の New College に行った。ここは炎のゴブレットでムーディがマルフォイをイタチ? に変えるシーンが撮影された場所で、そのシーンに登場する木も見ることができた。
- 聖メアリーで展望台に上った。

【Sunday, 16 August 2015】

- 朝ごはんを食べるホールが Hogwarts の食堂みたいですごかった。
- 午前中はブレナム宮殿に行った。宮殿に入るのに 21.50 ポンドかかると聞いていたのに、結局バス込み 18 ポンドくらいで済んで嬉しい。
- Churchill の歴史について学んだ。Winston Churchill はその祖先で戦勝のご褒美にブレナム宮殿を与えられた John Churchill に憧れていた。先代の首相の推薦で、イギリスが戦争に勝つために首相に選ばれた。その後人気は落ちるが、1951 年に首相に再選される。
- 今日 Christ Church に入ろうとしたら、日曜日で閉まる時間が早くて間に合わず、目の前でドアが閉められた。黒人の係員の人に、なんでここが Harry Potter のロケ地になったのかと昨日と同じ質問してみた。すると、大きいからではないかと言われた。黒人の方の英語はすごく聞き取りづらかった。
- トールキンと C. S. ルイスが通ったというパブ、The Eagle and Child に行った。壁にホビットやナルニアのタペストリーみたいなものが飾ってあった。
- パブでは、フィッシュアンドチップスなどをつまみながらゼミ討論。先生から、午前中に訪れたブレナム宮殿で観た展示の内容を踏まえ、Churchill についてお話があった。第 2 次世界大戦当時のイ

ギリス首相 Winston Churchill は 1874 年にブレナム宮殿で生まれる。Winston は幼い頃より、自身の祖先であり 1704 年にブレンハイムの戦いで勝利をたたえられてアン女王よりブレナム宮殿を与えられた John Churchill に憧れを抱いていた。そのため彼の学校での成績は決していいものではなかったにも拘わらず、歴史と地理においてだけは飛び抜けていた。やがて Winston は軍事面で頭角を現し、戦争に勝つことが最重要事項とされた世界大戦の時期に首相に就任する。任期は第 2 次世界大戦直前の 1940 年から戦後選挙で敗退する 1945 年までと、冷戦の時代となる 1951 年から 1955 年であった。このことから、Winston Churchill は戦争に勝つための首相であったことが分かる。また、彼は戦争に貢献した首相ということでイギリス人が選ぶ好きな偉人ランキングでは 1 位にランクインするほどの人気があることから、戦争についての考え方が日本人とイギリス人では全く異なるということが分かった。イギリスにとっての戦争は日本にとっての戦争と違い、「反省すべきもの」ではなく「誇るべきもの」である。一方は戦勝国、一方は敗戦国であるという歴史の違いはあるかもしれないが、勝っているからといって戦争は素晴らしいものだと言えるだろうか。考えてみれば、多くの人を訪れる観光地である宮殿にかつての首相の戦争における業績をたたえた展示をするなど、日本では考えられないことだ。このようなイギリスと日本の戦争についての考え方の違いは、日本と比べたときに最も顕著なイギリスの特徴である。私たち日本人にとって戦争とは一般的には繰り返してはいけないものとされ、デリケートに語らねばならない問題であることが当たり前の前提としてあるが、イギリス人にとってはそうではないのだ。このことを自分の目で見て感じてくることができたのが、ブレナム宮殿訪問の最大の意義であった。

【Monday, 17 August 2015】

- 今日もロンドンに移動する前に Christ Church に行って、4 人の人にインタビューした。初日のおぼさんが一番詳しく教えてくれて、それ以上の収穫がなかったので残念。
- ロンドンに移動した。リフトが少なすぎる。何度もキャリーを担いで階段を上った。
- Warner Bros. Studio Tour!!
- ダブルドアは、2 作目までと 3 作目以降で俳優が交代している。シリーズの途中で俳優が代わった唯一のキャラクターである。1 代目のリチャード・ハリス演じるダブルドアは中世ルネサンス風、2 代目のマイケル・ガンボン演じるダブルドアはヒッピーシックというように衣装の雰囲気も変えられている。
- ダブルドアの部屋のセットにあるたくさんの本は、電話帳をリメイクして作られたものである。
- ウィーズリー家のセットに使われる小物は、ウィーズリー家があまり裕福でないために、なるべく高価ではないものがリサイクルショップなどから集められた。
- 子役がスタジオにいられるのは 1 日 4 時間までと決められており、スタジオ内には学校があつて、子役はそこで勉強をしていた。忙しいときには 50 人もの教師がその学校で働いていた。ダニエルは英語やフランス語、エマは地理、ルパートは美術が得意だったらしい。
- 魔法薬学の教室の壁の文字は昔の錬金術に使われた呪文の成分に関する。
- 賢者の石での最初の魔法薬の授業はスタジオではなく、レイコックにある修道院でのロケだった。

【Tuesday, 18 August 2015】

- ロンドン2日目。
- レスター・スクエアに行って、今日のレミゼの立ち見のチケットと、明日のチャーリーとチョコレート工場のチケットを買った。立ち見は劇場に直接行かないと買えない。
- レスター・スクエアにはたくさんのチケット売り場があった。
- トラファルガー広場へ。ストリートアーティストがいっぱいた。トラファルガー広場のライオンは三越のライオンの大本。
- ロンドンの中心部の広場には、アメリカ人のリンカーンの像があった。マンデラやガンジーもいた。
- レミゼは、立ち見が全く苦じゃないほどよかった。One Day More のシーンと、ジャベールが死ぬシーンは鳥肌が立った。
- ファンテーヌ役の人がアジア系の顔立ちで、身長も低かった。アジア系かと思って本日のキャストを見たがそれらしい名前は見つけられなかった。アジア系イギリス人かもしれない。

【Wednesday, 19 August 2015】

- ロンドン3日目。
- エミレーツ・スタジアムに行ってお土産を買う。
- 寮から歩いてキングス・クロス駅まで行った。芸術社会論の授業で模写をしたのだが、そのまま感動した。
- 次に死の秘宝に登場するミレニアム・ブリッジ、アズカバンの囚人に登場するバラマーケットに行った。
- ロンドン塔、タワー・ブリッジ、大火塔を見た。
- 夜はチャーリーとチョコレート工場を観た。演劇文化論で習ったドルーリー・レイン劇場だったので感動した。また、映画のストーリーしか知らなかったのでラストが映画と少し違って驚いた。でもリスのシーンなどは映画とミュージカルはそっくりだった。

【Thursday, 20 August 2015】

- 大英博物館に行った。本当に広くて、とても見切れなかった。全部見たら1週間ぐらいかかりそう。途中で疲れて何度も休んでしまった。
- 帰りにカフェネロでホットチョコレートを飲んで、スタンプカードが全部たまった。
- 寮まで1人で帰ろうとしたら道が分からなくなって、焦った。建物のデザインが統一されているため自分がどこにいるのか分からなくなる。

5. Photos



Bath





Oxford





London



6. Reviews

I. 130107 浦 萌々理

今回イギリスで以下の2点を学んだ

- ・多くの人との関わりを通して専攻を深めることができること
- ・まだまだ英語力が低いこと

地元の書店や博物館の店員とオースティンの作品について語り合ったこと、Ball room party に参加したこと、ジェーンオースティンツアーに参加したこと、留学先で他国の友人とオースティン作品について議論しあったこと等を通して、様々な方面から知識を得ることができ、非常に意義のある経験となった。今後も国を自ら積極的に越え、多くの人と関わりあうことで専攻や勉学の知識を深めていきたいと思う。

また、英語力に関しては、行く前はある程度の自信があった。しかし、バース大学の短期セミナーにて、自分の意見をうまく述べることができず、悔しい思いをすることがあった。反対に、ヨーロッパの友人達は文法等を恐れず、彼らの思いを英語で表現することに躊躇はなかった。また、中国の友人は、同じアジア人であるにも関わらず、私よりも流暢に、的確に英語を操っていた。私も負けてはいられないと思い、帰国後もさらに英語力向上に励んでいこうと決意した。

以上を踏まえ、この英国での学びは私にとって非常に大きなものであった。この経験を活かし、今後の人生へと繋げていきたい。

II. 130118 大黒 茜

今回のサマープログラムを通じて、今まで日本で学んできたことを実感し、また現地ではかわからないことも感じる事ができた。

今まで日本とイギリスの大きな違いの一つとして、世界大戦という歴史背景があることを学んできた。日本では戦争はあくまで過去のあやまちであり、決して繰り返されるべきものではない、という一貫した教えが存在する。しかしイギリスでは戦勝国であるがゆえに、日本のように否定的なイメージよりも、素晴らしい勝利、栄光といったイメージを戦争に対して抱えているということ、実際にチャーチル元首相の生家であるブレナム宮殿を訪れたことで感じた。

現地で初めて感じたこととしては、国民性の違いである。例えば、日本人特有の奥ゆかしさに由来する、人の主張を最後まで聞き、理解してから返答するという行為は国際社会で交流する際弱点になりがちであるということだ。状況にも左右されるとは思うが、ヨーロッパ人や中国人の学生は、人の話を割ってでも自己主張をする。保守的な姿勢は世界的に見れば特異であり、自分たちを客観的に見る姿勢も重要であると感じた。

実際に異国を訪れ、文化に触れることで、机上の学びでは理解しきれない部分を内側から感じる事ができた。また、自分の考え方や文化を客観視することができた。今回のフィールドワークで得た視点を大切に、これからの学習に励んでいこうと思う。

III. 130206 川村菜由

今回のフィールドワークで、自分はまだまだイギリス社会について知らないことがたくさんあると改めて気づかされた。ブレナム宮殿でのウィンストン・チャーチルについての学びもその1つである。日本では恥ずべき過去とされ、二度と繰り返してはいけないという反省の対象である戦争が、イギリスでは打って変わって栄えある歴史として国民に認識されているという事実にはこれまで考えが及ばなかったし、非常に驚いた。日本では戦時中の総理大臣が崇められることなど考えられないというのに、イギリスではウィンストン・チャーチルの生家であるブレナム宮殿にはその功績をたたえて展示が催され、現在でも国民の賞讃の的となっているという事実は、日本と比べたときにイギリスという国の大きな特徴となるのだなと感じた。日本ももし戦争に負けていなかったら戦争を良しとする国のままだったのかと思うと、敗戦してよかったとも思える。

帰国後の個人発表では、 hogwarts はパブリック・スクールの風刺であるか、つまり『ハリー・ポッター』シリーズにおける魔法族とマグルの差は現実社会におけるイギリスの階級差であるかという問題を取り扱った。その調査においても、自分のイギリスの教育制度や階級問題についての知識のなさを痛感した。これからの自分の研究テーマにとってイギリス社会の理解は必須であるので、それをこれからの目標としたい。

IV. 130354 鈴木裕美

アメリカへ交換留学をするに当たり、家族、友人、学校の先生、職員の方、奨学金を給付してくれた企業などから様々な力添えを得た。彼らの助けなしでは私の留学という夢は叶わなかつたろう。また、私自身、留学の条件である TOEFL や IELTS のスコアを満たすため日々英語の勉強を頑張った。それでも留学当初は、現地の人が話す英語が聞き取れず苦勞した。セメスターが始まり、興味のある授業に行くと、教授の話す内容もよく理解できず、また現地の大学生と全く同じ課題をこなすことに先行きが非常に不安になった。留学生だからという特別扱いはない。たくさんの留学生が世界中から集まり、特に珍しがられることもなかった。語学学校ではなく大学へ交換留学をすることの大変さを痛感した。アメリカの大学生は高い GPA をとることに熱心で、図書館は座る場所を見つけるのが困難な程いつも混んでいた。そこで留学前に履修を考えていた授業をやめ、自分の力量にあった授業を履修することで大学生活に馴染んでいった。教授はオフィスアワーに質問をしに行くといつも熱心に答えてくれた。日々現地で生活を送ること自体が貴重な体験であった。毎日のようにキャンパスでは様々なイベントが開催され、それらに積極的に参加することで、一生絆を深めたいと思う大切な友人も作ることもできた。現地でしか体験できないアメリカの消費社会や人種の問題などを経験できたことも留学の成果である。

日本に帰国した今、アメリカで見てきたこと・体験してきたことを踏まえて物事を捉えるようになった。広い視野を持って物事を客観的に見ることができるようになった。そこで気付く日本社会の矛盾や、逆にアメリカになくて日本にある素晴らしい文化などを発見し、今後もより深い思考ができるようになるため、熱心に国際交流をしていきたいと思う。

V. 130463 中川南海

今回の英国バース大学への短期留学、そしてその後のフィールドワークでは実際に現地での活動を通して座学では得られない多くの経験ができた。

これまでイギリス文学・文化演習ゼミではユートピア文学をエコロジーという観点から考察し、環境問題や脱植民地主義など21世紀型の課題に取り組んできた。また文学作品を社会の縮図として当時の時代背景や作品の意図などを理解できるようディスカッションなども行ってきた。そして実際に現地を訪れ、今のイギリスに暮らす人々の考えや価値観を新しい視点として自分の中に取り入れることで、これまで研究対象だったイギリスが生きた国であると改めて実感した。また、自分たちが日本の歴史的背景によって培ってきた戦争や環境、男女差といった問題に対する考えは自国の教育や文化によって形成された一方向的な考えであったことに外へ出て初めて気付くことができた。

イギリス文学を学ぶ、という異文化理解を通じて自国の文化とアイデンティティを捉え直すことが体現できたのが今回のイギリスへの短期留学での経験であり、私が学び得た中で最も印象的なものの一つである。

VI. 130492 西村友

3週間のイギリス海外語学研修・フィールドワークは本当にかげがえのない時間であったと思う。日本にいたら絶対に体験することができなかつたであろうこと、多くの良き出会いがあった。イギリスへ行ったことで異文化を体験することは勿論のこと、バース大学で出会った多くの他国から来た学生から学ぶことは大きかったように感じる。彼らは自国のことを良いことも悪いこともすべて客観的に見て発信する力に長けていた。また、自分の考えを明確に述べる点など見習うべき点が多くあった。私はイギリスを訪れて自分が日本人であること、アジア人であることを強く感じた。同時に、いざ日本のことを話そうとすると何も話せず、自国の理解が足りないことを身をもって実感した。異文化理解をするということは自国の文化やアイデンティティを捉え直すことであることを改めて考える機会となった。日本文化に対する理解を深めたいという思いが強くなり、現在はいつか通訳案内士の資格を取得出来るように勉強したいと考えている。

実際にイギリスへ行って自らの五感を通じて感じたことは机上の学びでは体験することができない貴重なものであった。また、英語を学ぶことの重要性を以前に増して感じるようになり、今後も努力したいと思っている。語学研修・フィールドワークを通して異文化理解、自国に対する考えを捉え直すなど多くのことを学び、そして次につなげる新たな目標を得ることができた。今回学んだことを生かし、より研究分野の理解を深めることに努めたいと思う。

VII. 130521 濱中啓太郎

実際 3 つの都市を調査し、バースという私たちに馴染みのない都市だけではなく、ロンドンやオックスフォードといった私たちにとってある程度親しみのある都市についても調べることによって新たな発見があった。

実際のフィールドワークを想定した事前学習を通じて、より私たちが現地へ行く具体性や実行性を考慮した調査を行うことができた。文学や文化的領域のみならず、交通インフラや、各都市の産業や地理的要素にも目を向けることで、より幅広い視野で各都市を分析することが重要であると感じた。各都市を調べることによって、そこから日本との共通点や相違点などを改めて確認することができた。

VIII. 130651 森屋敦正

ロンドンやバースといったイギリスの各地を各自で調べるという事前学習を通じて、今まで自分が思い描いていたイメージが覆ったり、さらに知識を深めたりすることが出来るなど有意義に時間を使うことが出来た。

また自分以外のゼミ生も自分の興味や与えられたテーマに沿って調べ学習を行っていたために、着眼点の違いから議論が発展するなど、複数の人で調べ学習を行うからこそ得られる発見がたくさんあった。

自分自身はフィールドワークにはいくことが出来なかったが、実際に行ってきた人たちの話などを通して調べ学習の検証などについても知ることが出来たので大きな成果だったと感じる。また夏休み中の自分自身の課題として、「時計じかけのオレンジ」を読み作品分析を行ったことで、卒業論文の下地が出来上がったことも大きな成果だったと感じる。「時計じかけのオレンジ」に関しては、難しい作品ではあるが時間をかけて読み込むことが出来たので、背景に隠れる問題や、風刺しているものについての考察を自分なりに踏み込んで行うことが出来たと感じる。

2015 年度
イギリス文学・文化論ゼミ
海外語学研修・フィールドワーク報告書

2016 年 3 月 31 日発行

監 修 加藤 千博
編 者 横浜市立大学 国際総合科学部 国際教養学系 国際文化コース 加藤ゼミ 3 年生
発行者 〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸 22-2 加藤ゼミ
電話 045-787-2256
